CG-WLBARAGL

取扱説明書

PN Y613-07313-02 Rev.B

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本製品	CG-WLBARAGL を指します。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　　]	[　　] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例： OK → [OK]

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉

Windows® .... Microsoft® Windows® Operating system

Windows® XP .... Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および
Microsoft® Windows® XP Professional operating system

Windows® 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system

Windows® Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system

Windows® 98SE .... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目　次

PART 1

まず準備が必要

使用環境を確認する

チェック1

□ プロバイダとの契約、工事は完了していますか？

本製品を使ってインターネットに接続するには、フレッツ･ADSL、Bフレッツなどの回線を使ったインターネット接続サービスへの加入が必要です。また、プロバイダによる工事が完了するまでは、インターネットへの接続はできません。

チェック2

□ モデムやケーブルはそろっていますか？

回線と接続するには、回線の種類に応じたモデムなどが必要になります。また、回線への接続が正しくできているか、確認してください（確認方法については、ご契約のプロバイダにお問い合せください）。また、本製品とパソコンを接続するには、LANケーブルが必要になります。LANケーブルを購入される場合は、カテゴリ５以上のLANケーブルをご購入ください（弊社製のLANケーブルをおすすめいたします）。

チェック3

□ 設定に必要な情報は準備できていますか？

本製品の設定を行う際に、各サービス別に次の情報が必要です。プロバイダとの契約時に情報が提供されますので契約書類などで確認し、メモしておいてください。不明な場合はご契約のプロバイダにお問い合わせください。

■ PPPoE接続の場合（フレッツ･ADSL／Bフレッツなど）
- ユーザ名
- パスワード
- サービス名（プロバイダから指定された場合のみ）
- DNSサーバのIPアドレス（プロバイダから指定された場合のみ）

■ DHCPを利用する場合（Yahoo! BB／CATVなど）
- コンピュータ名（プロバイダから指定された場合のみ）
- DNSサーバのIPアドレス（プロバイダから指定された場合のみ）

■固定IPアドレスで接続する場合（固定IPサービス）
- WAN側のIPアドレス
- サブネットマスク
- ゲートウェイアドレス
- DNSサーバのIPアドレス

上記の名称は、プロバイダによって異なる場合があります（例：ユーザ名→アカウント、ユーザID、ログインIDなど）。ご不明な点は、ご契約のプロバイダに確認してください。

パソコンの環境はそろっていますか？

■ LAN ポート（10BASE-T ／ 100BASE-TX ポート）

パソコンに LAN ポートがない場合は、ご利用のパソコンに合わせ、次のいずれかの方法で LAN ポートを増設してください。増設方法については、パソコン、または LAN ボード、LAN カード、LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

- ・ 拡張スロット（PCI バスまたは ISA バス）に LAN ボードを取り付ける
- ・ PC カードスロットに LAN カードを取り付ける
- ・ USB コネクタに LAN アダプタを取り付ける

■ OS

本製品は、Windows XP ／ 2000 ／ Me ／ 98SE など、TCP/IP をサポートする OS に対応しています。

■ Web ブラウザ

本製品の設定は、Webブラウザ（フレームに対応しているもの）で行います。パソコンにMicrosoft Internet Explorer 5.5 以降がインストールされているか、確認してください。

本製品の設定は Windows 環境で設定してください。

本製品の機能

本製品には、次のような機能があります。

- ・ フレッツ･ADSL ／ B フレッツ対応
- ・ WAN ポートは 10BASE-T ／ 100BASE-TX 対応
- ・ NAT ／ IP マスカレード機能で、複数のパソコンから同時にインターネット接続可能
- ・ 2 つのルーティング方式（スタティック、RIP）に対応
- ・ DHCP クライアント／サーバ機能で簡単導入
- ・ セットアップウィザードによる簡単インターネット接続
- ・ 簡単 Web 設定
- ・ パソコンデータベースによるユーザ管理が可能
- ・ 詳細なアクセス制限が可能
- ・ E-Mail 機能にてログ情報を送信可能
- ・ NTP に対応
- ・ DDNS（ダイナミック DNS）対応
- ・ Web 管理ツールによりファームウェアのアップグレードが可能
- ・ UPnP、NetMeeting、MSN Messenger などに対応
- ・ 米国 Atheros Communications, Inc. による Super A/G™、eXtended Range（XR）機能を搭載
- ・ 無線通信時のセキュリティが簡単に設定できる、米国 Atheros Communications, Inc. による JUMPSTART™ 機能を搭載
- ・ IEEE802.11a 通信時における国際標準規格（8ch）をサポート
- ・ WDS 機能を搭載し、同一機種間での LAN 間通信が可能

PART 2 ネットワークに接続しよう

パソコンのネットワーク設定をしよう

本製品を利用してインターネット接続ができるように、ご使用になるパソコンのネットワーク設定を行います。次の内容を確認してください（確認と設定の方法は、OSの種類など、ご使用になるパソコンの環境により異なります）。

・ネットワークアダプタの設定
・TCP/IPの設定

●Windows XPで利用するときは

この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については、OSの取扱説明書をご覧ください。

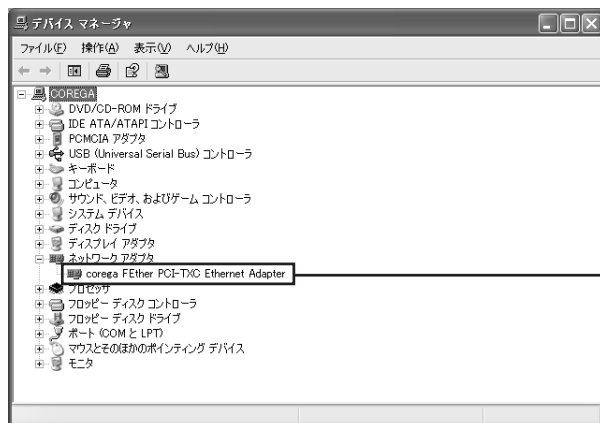
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　「スタート」－「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「ハードウェア」タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は、ご使用になっているネットワークアダプタのメーカ、機種によって異なります。

メモ　**「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。**

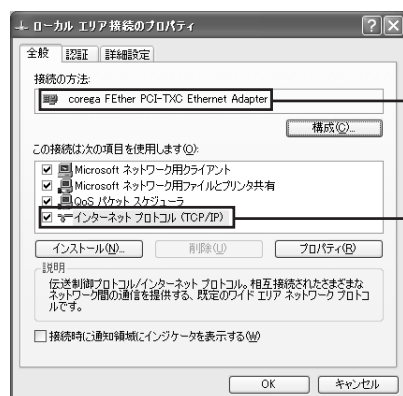
■TCP/IP プロトコルを確認する

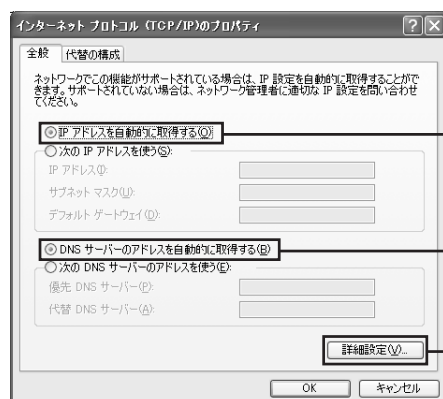
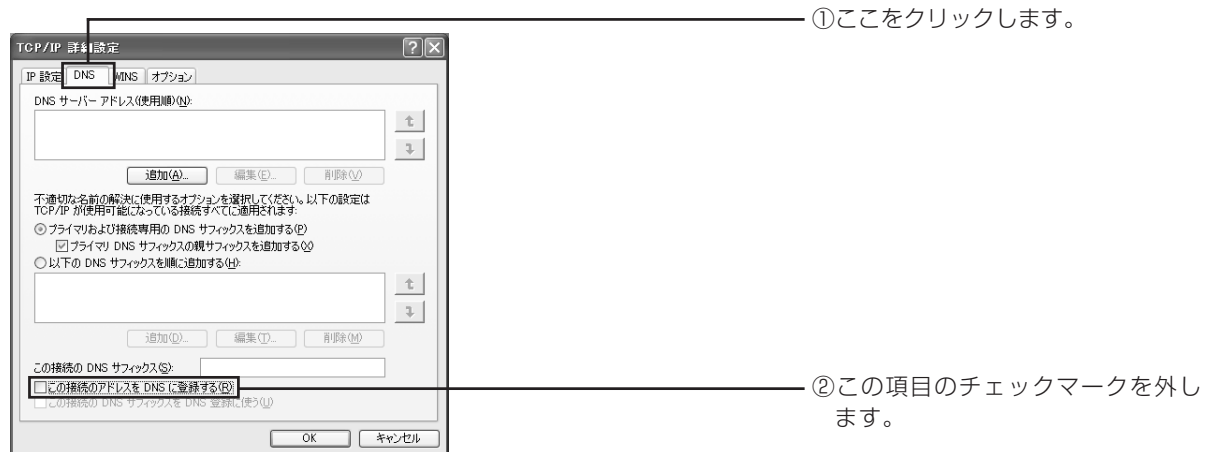
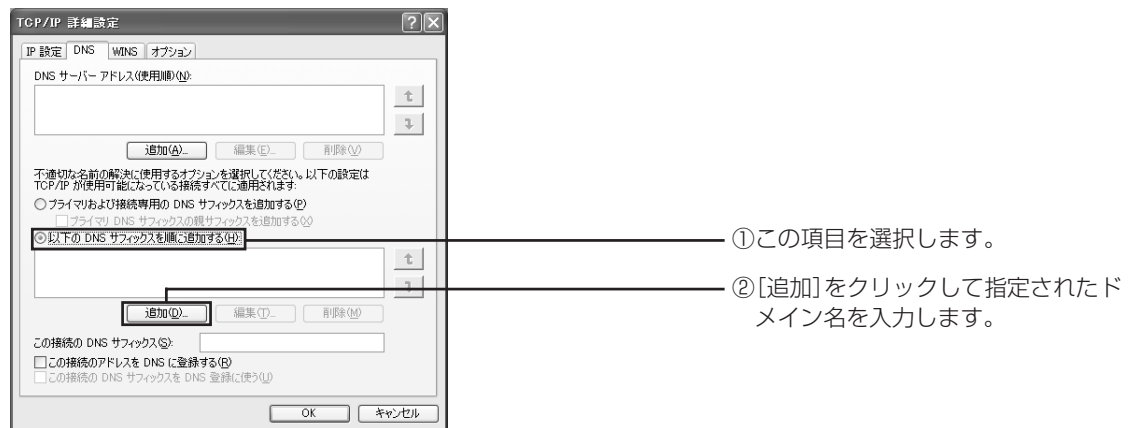
1 「スタート」－「コントロールパネル」をクリックします。

2 「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3 「ネットワーク接続」をクリックします。

4 「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP）」にチェックが入っているか確認します。

6 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

7 「全般」タブの「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

8 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

注意 **プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。**

9 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

10「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［閉じる］をクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ **メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。**

次に「Web ブラウザの設定をしよう」（P.18）に進みます。

●Windows 2000で利用するときは

メモ　この作業は､｢Administrator｣または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

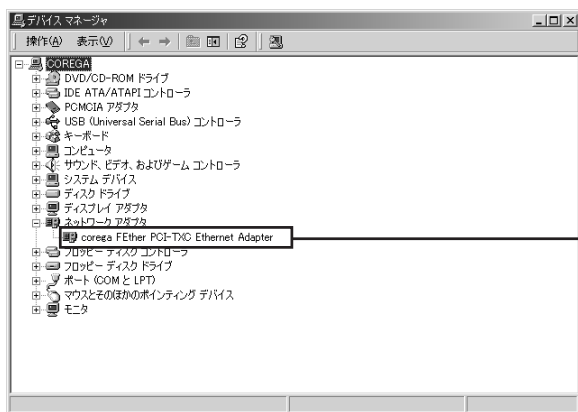
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか､｢デバイスマネージャ｣で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「ハードウェア」タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。

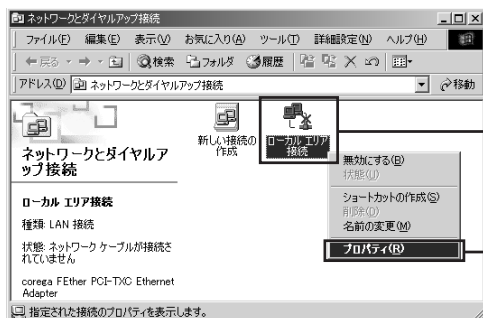
3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

ネットワークアダプタ
※実際に表示される名称は､ご使用になっているネットワークアダプタのメーカ､機種によって異なります。

注意　｢×｣や｢！｣マークが表示されている場合､ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

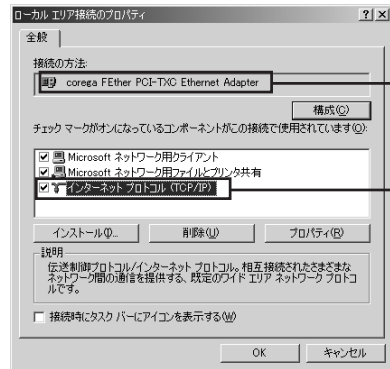
■ TCP/IP プロトコルを確認する

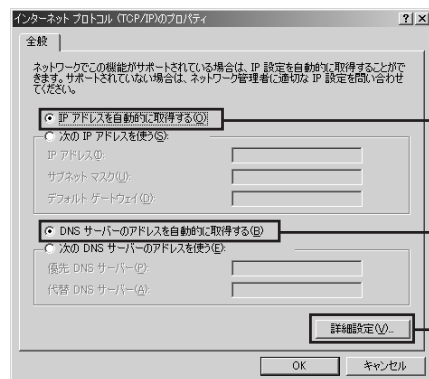
1　「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

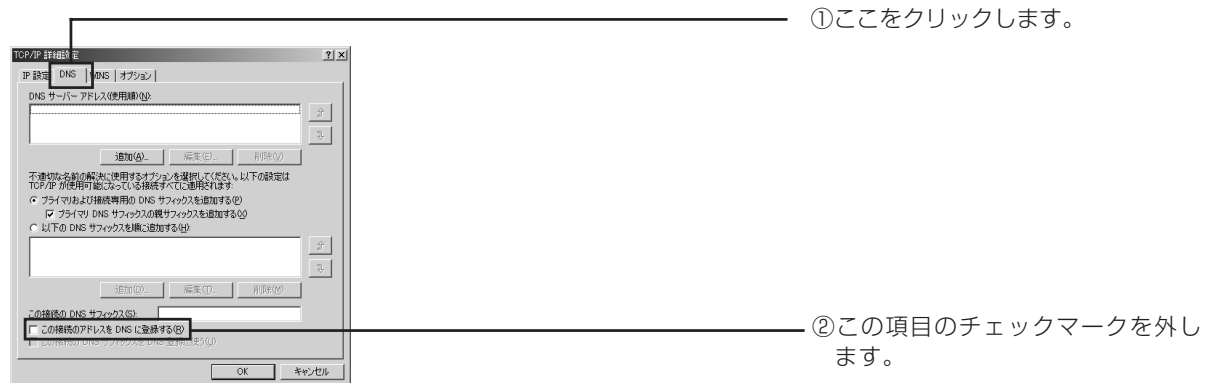
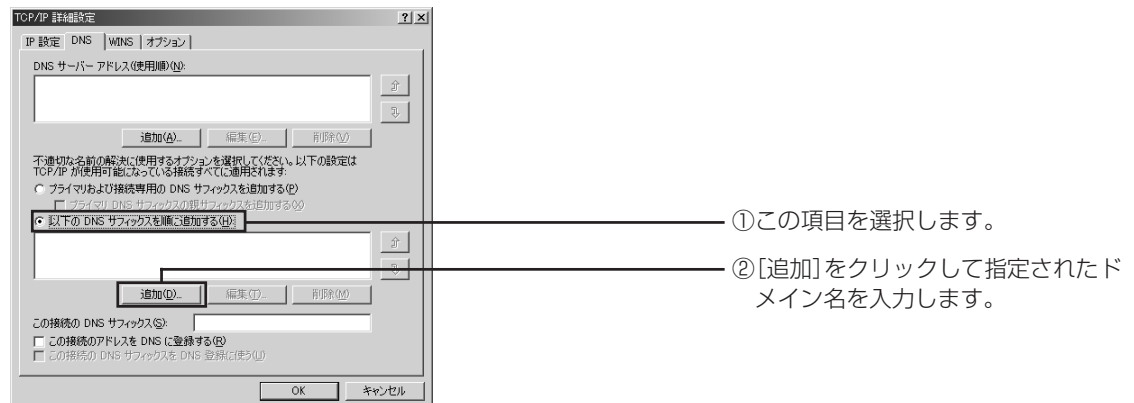
2　「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

①｢ローカルエリア接続｣を右クリックします。

②｢プロパティ｣をクリックします。

※｢ローカルエリア接続｣の名称はご使用のパソコンの環境により異なる場合があります。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.13）をご覧ください。

4 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、[追加]をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

7 「TCP/IP 詳細設定」画面の[OK]をクリックします。

8 「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面の[OK]をクリックします。

9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の[OK]をクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をしよう」(P.18)に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

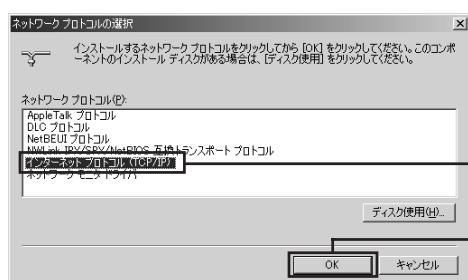
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」 －「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で ［インストール］ をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］をクリックします。

6 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認し、［OK］をクリックして画面を閉じます。

7 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.11 ～）からの設定を行ってください。

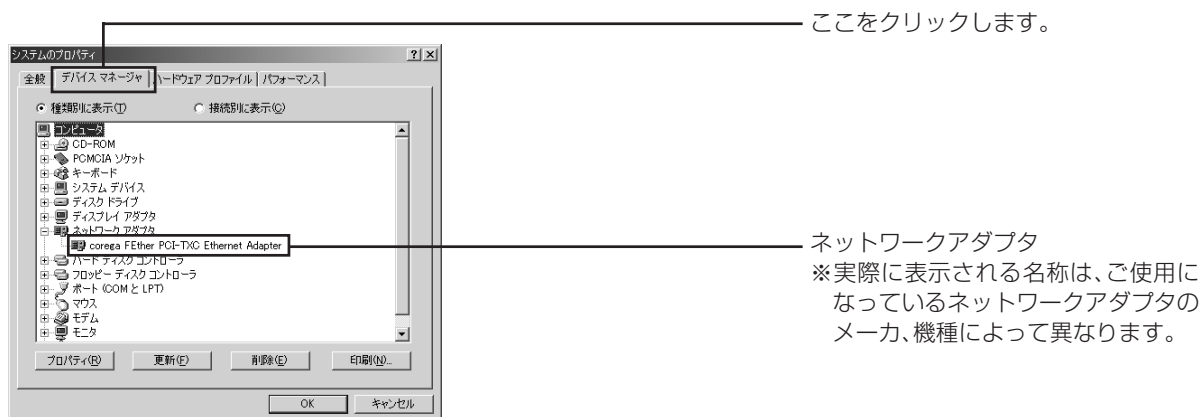
●Windows Me／98SEで利用するときは

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

・「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。
・「Microsoft仮想プライベートネットワークアダプタ」「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本製品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

■TCP/IPプロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

1　「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

2　「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

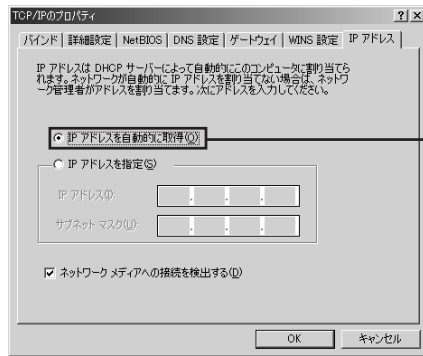
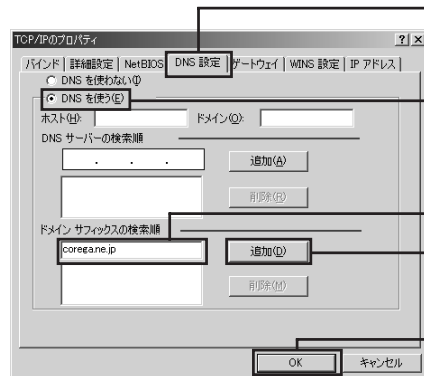
Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」が表示されます。

3　「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.17）をご覧ください。

4　「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタを選択します。

5 「IP アドレス」タブの「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「DNS 設定」タブで「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して[追加]をクリックしてください。

6 「TCP/IP のプロパティ」画面の[OK]をクリックします。

7 「ネットワーク」画面の[OK]をクリックします。

WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ(もしくはフロッピーディスクドライブ)にWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

次に「Web ブラウザの設定をしよう」(P.18)に進みます。

■TCP/IP をインストールする

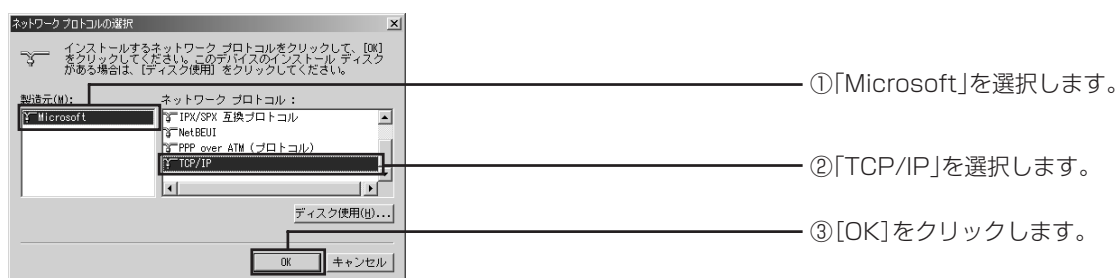
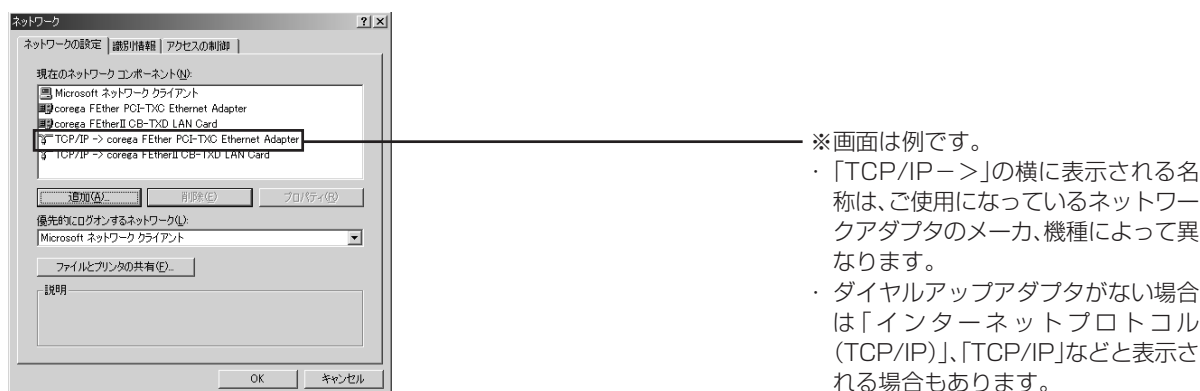
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」をクリックします。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」をダブルクリックします。

3 「ネットワーク」の画面で、［追加］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して［OK］をクリックします。

6 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP －＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が追加されていることを確かめます。

7 ［OK］をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.15～）からの設定を行ってください。

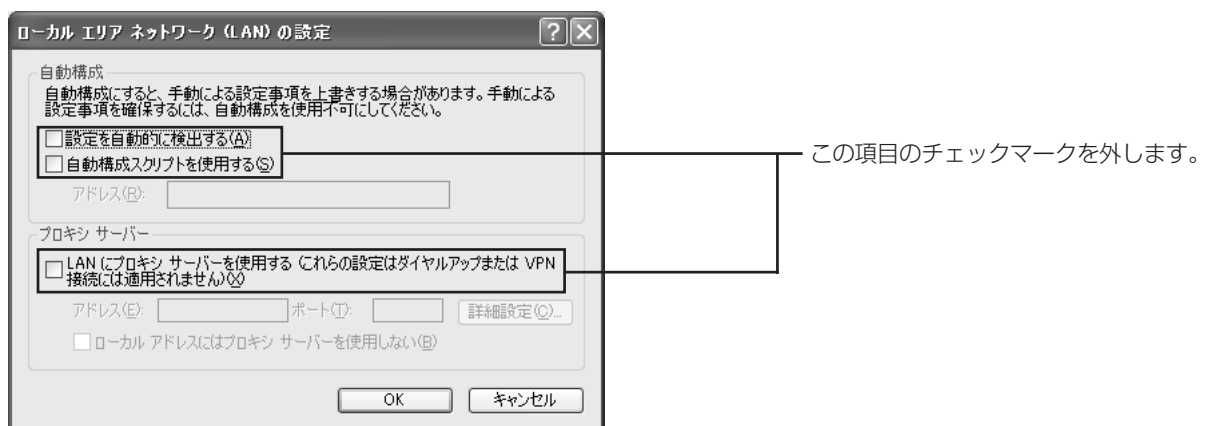
Webブラウザの設定をしよう

本製品を利用できるように、Web ブラウザの設定を行います。ここでは、Internet Explorer 6.0 の場合の設定方法を例に説明しています。その他の Web ブラウザの場合は、Web ブラウザのヘルプなどをご覧ください。

1　Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」をクリックします。

2　「インターネットオプション」画面が表示されたら「接続」タブをクリックします。

3　「LAN の設定」をクリックします。

4　「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面で、「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。

5　［OK］をクリックします。

6　「インターネットオプション」画面で［OK］をクリックします。

次に「パソコンと本製品を接続しよう」（次ページ）に進みます。

パソコンと本製品を接続しよう

●本製品を設置する場所について

・本製品に同梱されている「はじめにお読みください」をご覧いただき、使用時の注意等についてご確認ください。
・本製品の側面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。
・本製品を安定させて設置する場所が見つからない場合は、付属の縦置きスタンドを本製品に取り付けることで、本製品を立てて設置できます。取り付け方法は、本製品に同梱されている「はじめにお読みください」をご覧ください。

■設置に適した場所
・水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

■設置に適さない場所
・直射日光が当たる場所
・暖房器具の近くなど
・高温多湿でホコリの多い場所
・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

●本製品の電源を入れるには

■本製品の電源の取り方
本製品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプタを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプタやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

■本製品の電源の入れ方／切り方
本製品背面のDCジャックにACアダプタのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプタの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

・**本製品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。**
・**ACアダプタの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。**

●パソコン、モデムと本製品を有線で接続する

本製品とモデム、パソコンなど、ネットワーク接続する機器をLANケーブルで接続します。

メモ　無線での接続方法は、付属の「お使いの手引き」をご覧ください。

■推奨ケーブルについて

すべてのケーブルが機器間を接続するのに適切な長さであることを確認します。本製品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。また、ケーブルは、100BASE-TXで接続する場合はカテゴリ5以上、10BASE-Tで接続する場合はカテゴリ3以上のLANケーブルを使用してください。

1　本製品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2　本製品背面のLANポートにLANケーブルを接続します（①）。

3　LANケーブルのもう一方をパソコンのLANポートに接続します（②）。

4　本製品背面のWANポートに付属のLANケーブルを接続します（③）。

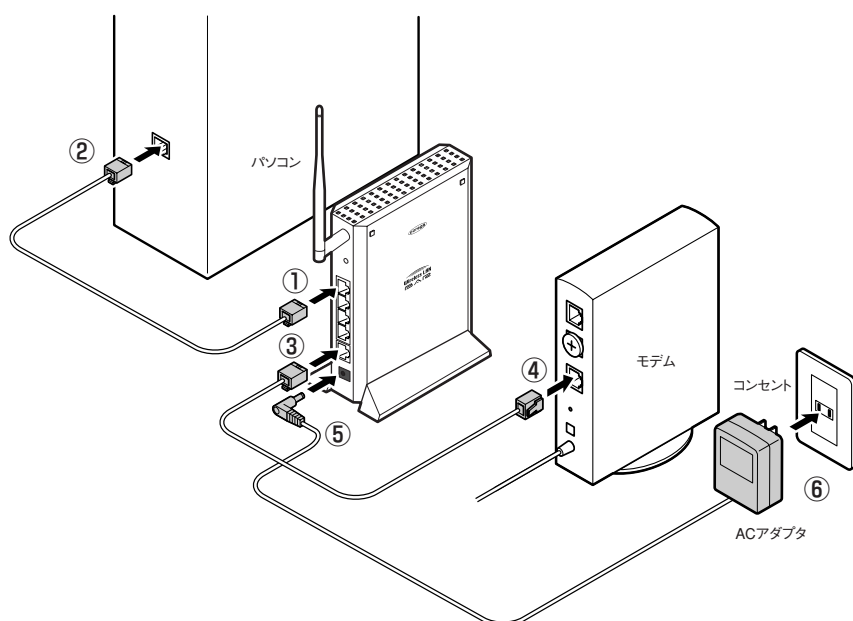
5　モデムまたは回線終端装置のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一方を接続します（④）。

6　モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。

7　本製品背面のDCジャックに専用ACアダプタを接続します（⑤）。

8　本製品の専用ACアダプタをコンセントに接続し、本製品の電源を入れます（⑥）。本製品前面の電源、WANの各LEDが点灯していることを確認します。

9　パソコンの電源を入れます。

10　本製品前面の、ケーブルを接続したLAN側のポートの通信状態LEDが点灯していることを確認します。

本製品の設定をしよう

パソコンから本製品を使ってインターネットに接続できるように本製品の設定を行います。本製品の設定はWeb ブラウザで行います。本製品に接続されているパソコンのうちの1台から設定作業を行ってください。Web ブラウザにはInternet Explorer 5.5 以降をご利用ください。これ以外のWeb ブラウザでは、正常にセットアップが行えない場合があります。推奨ブラウザについては、P.6の「チェック4」をご覧ください。

本製品を設定する際には、本製品と設定用パソコンのみを接続して設定することをおすすめいたします。

●簡単な接続方法

インターネットに接続できるように最小限の設定をします。インターネットへの接続方式はご契約されたプロバイダによって異なります。P.5の「チェック3」でメモした情報を準備してください。

設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本製品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本製品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティソフトの停止、起動の方法は、セキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。

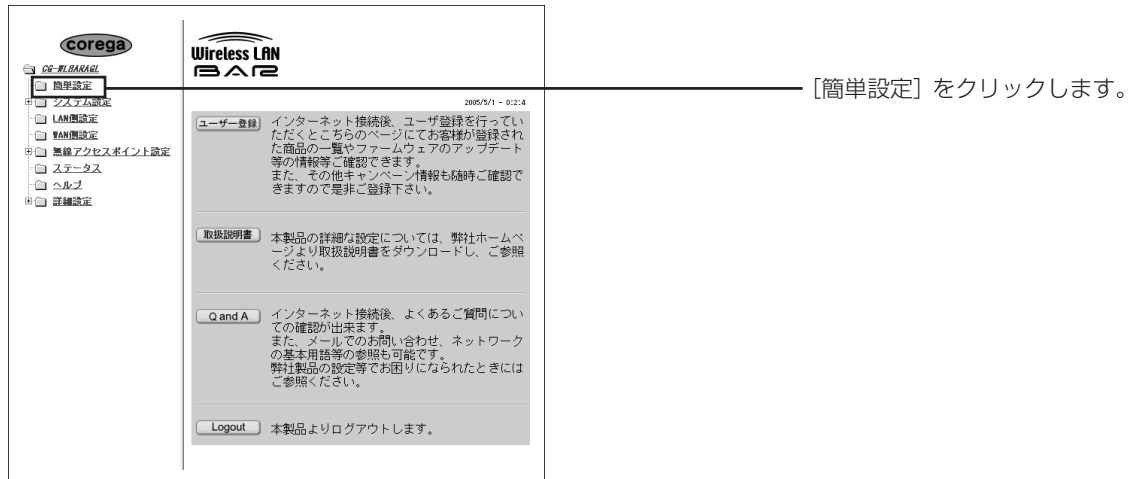
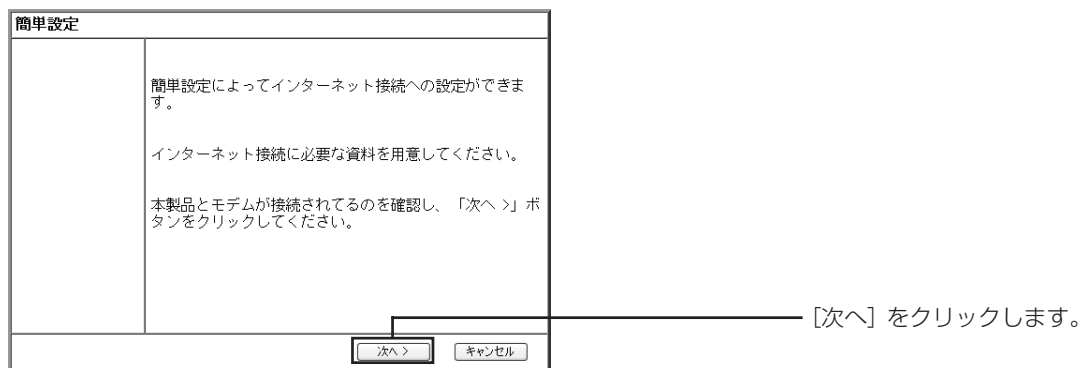
1　本製品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。

2　Web ブラウザのアドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名の欄に「root」と入力し、[ログイン] をクリックします。

- **工場出荷時の状態では、ユーザ名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。**
- **ユーザ名、パスワードは変更できます。詳しくは「本製品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したい」(P.80)をご覧ください。**

4　設定ユーティリティが起動します。

5　設定ユーティリティの左側にある［簡単設定］をクリックします。

6　「簡単設定」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

7　「簡単設定ーインターネット接続（WAN側設定）」が表示されたら、ご契約のプロバイダの接続タイプを選択し［次へ］をクリックします。

メモ　**接続タイプについては、次のページをご覧いただき、該当する接続方法を選択してください。**

〈IP 自動取得（DHCP）－ Yahoo! BB、CATV など〉

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）からIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP 機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。

〈IP 固定設定－固定 IP サービスなど〉

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）から固定IPアドレスを取得している場合に選択します。

〈PPPoE（FLET'S シリーズ）－フレッツ・ADSL、B フレッツなど〉

PPPoE と呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダよりユーザ名とパスワードが割り当てられます。本製品ではプロバイダの情報を設定ユーティリティに登録すると、「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

8 接続タイプに応じて「簡単設定」の各項目を設定します。次の接続方法ごとの説明をご覧いただき、設定を行ってください。

〈「IP 自動取得（DHCP)」の場合〉

「IP 自動取得（DHCP)」を選択した場合は、「簡単設定」で設定する項目はありません。P.25 の手順９に進んでください。

〈「IP 固定設定」の設定項目〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

項目名	入力例	説明
① WAN 側 IP アドレス	12.34.56.78	プロバイダから指定されたIP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.0	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12.34.56.1	プロバイダから指定されたゲートウェイのIPアドレスを入力します。
④ DNS サーバ 1	12.34.56.98	ローカルにDNSサーバを設置する場合、またはプロバイダからDNS サーバのIP アドレスを提供されている場合に入力します。

設定が終わったら［次へ］をクリックします。

〈「PPPoE（FLET'S シリーズ）」の場合〉

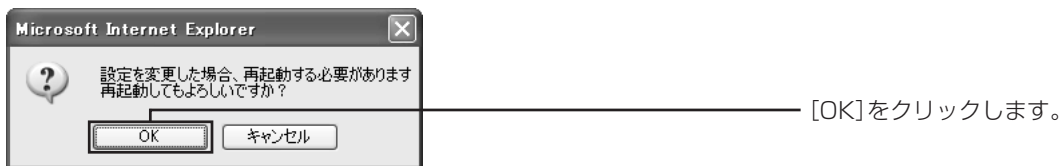
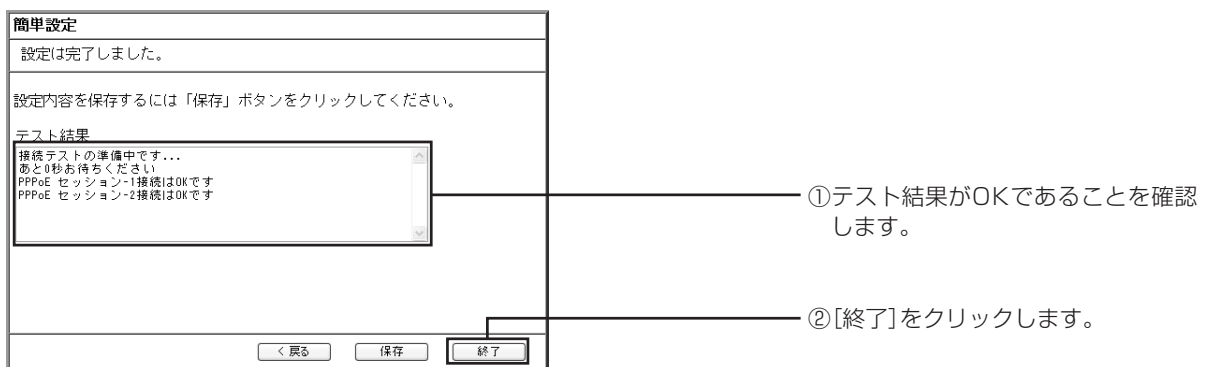
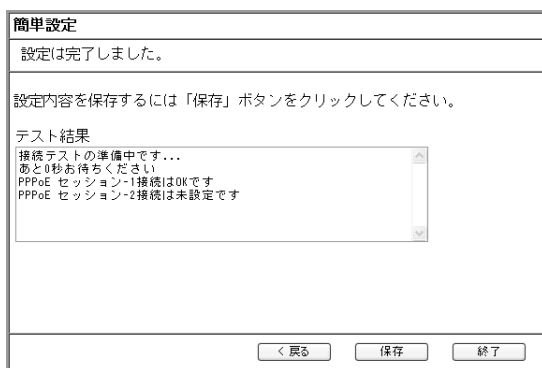
この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

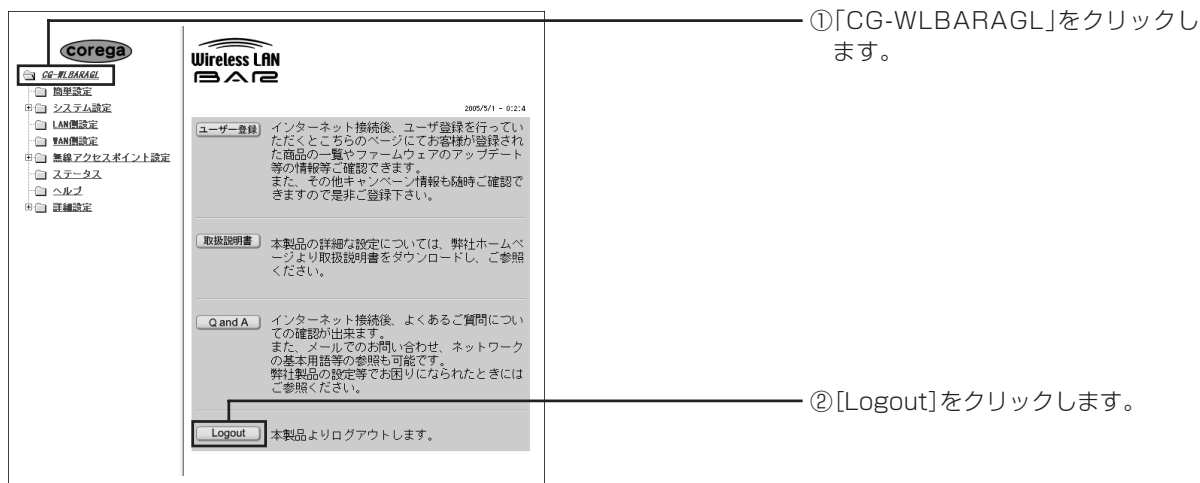
① 接続ユーザ名、接続パスワードを入力し、［次へ］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①接続ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定された接続ユーザ名を入力します（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）。
②接続パスワード	Password02	プロバイダより指定された接続パスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 25 文字までです。 ※「 ” 」および「 ” 」以降に入力した文字は保存されません。
③パスワードの確認	Password02	②で入力したパスワードを確認のためにもう一度入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。

② フレッツ・スクウェアをご利用になる場合はご利用地域（「東日本」もしくは「西日本」）を、利用しない場合は「利用しない」を選択します。

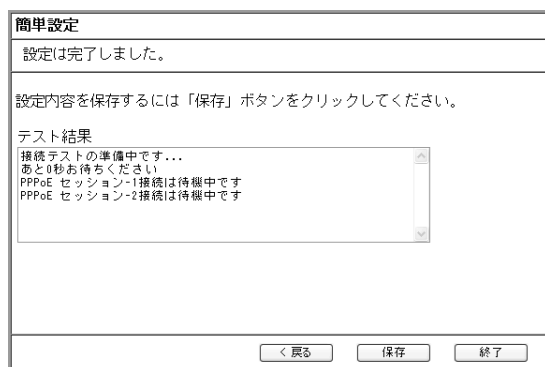
9　次の画面が表示されたら、［保存］をクリックします。

10 次のダイアログボックスが表示されたら［OK］をクリックします。

11 しばらくするとテスト結果が表示されるので、確認して［終了］をクリックします。パソコン、モデムと本製品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「OK」と表示されます。

P.24 の手順②で「利用しない」を選択した場合は次の画面になります。

メモ　上の画面のように表示されなかった場合は、このページの操作9に戻り、再度テストを行ってください。それでも正常に終了しなかった場合は、「テストに失敗したときは」（次ページ）をご覧ください。

12 画面左の「CG-WLBARAGL」をクリックし、次の画面に戻ったら［Logout］をクリックします。

13 Web ブラウザを終了します。

- **その他の設定項目については、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」（P.28）をご覧ください。本製品のより高度な使用方法については、「PART4 こんなときにはこの設定」（P.63）をご覧ください。**
- **PPPoE セッションを同時に2つ使用する（マルチ PPPoE）場合には、「マルチ PPPoE で2つの接続先を使い分けるには」（P.67）をご覧ください。**

■テストに失敗したときは

テスト終了後、次のような画面が表示されたときは、メッセージの内容を確認して、再度ウィザードをやり直してください。

上の画面が表示された場合、次のような原因が考えられます。

・ユーザ名かパスワードの入力を間違えている
　プロバイダからの契約書類などを確認して、正しく入力してください。

・モデムと回線が正しく接続されていない
　モデムとスプリッタ、スプリッタとモジュラコンセントなどが正しく接続されているか、確認してください。

インターネットに接続してみよう

パソコンと本製品の設定が完了したら、インターネットに接続できるか確認します。

1　本製品に接続したパソコンで、Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

2　Webブラウザのアドレス入力欄に当社のホームページアドレス「http://www.corega.co.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ホームページが表示されます。

ご契約のプロバイダによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに、時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合せください。

もし、インターネットに接続できなかった場合は、「PART5 トラブルや疑問があったら」（P.75）をご覧ください。

●他のパソコンを接続する場合

本製品に接続したいパソコンが他にもある場合は、「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.7）、「Webブラウザの設定をしよう」（P.18）、「パソコンと本製品を接続しよう」（P.19）をご覧いただき、同じ手順でパソコンの設定を行い、本製品のLAN側ポートとパソコンをLANケーブルで接続してください。

無線での接続方法は、付属の「お使いの手引き」をご覧ください。

PART 3

設定ユーティリティを見てみよう

本製品を使っていて「高度な機能を使いこなしたい」、「設定ユーティリティの詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

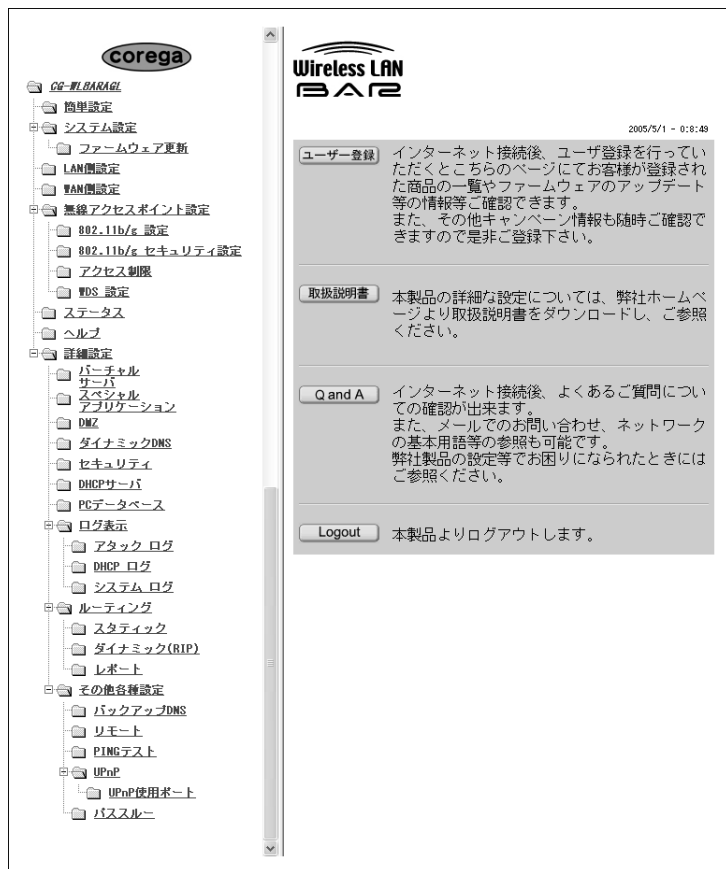
設定ユーティリティの全体構成について

注意 **各項目の設定を変更した際は、必ず「システム設定」ー「システム・リブート」の［実行］をクリックし、本製品を再起動させてください。「システム・リブート」を実行しないと、設定変更内容が本製品に反映されない場合があります。**

設定画面の各機能

- このPARTでの説明は、例を使用して説明しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
- 各設定画面にある［HELP］をクリックすると、説明が表示されます。
- 各設定画面の例は、PPPoE接続の画面です。IP自動取得接続やIP固定接続では、画面が例と違う場合があります。
- 設定変更を行った際は、各画面下にある［設定］または［更新］をクリックして、設定内容を保存してください。

●CG-WLBARAGL（トップページ）

設定ユーティリティ起動時の画面です。ユーティリティの全体図を表示している（画面左側）他、インターネットに接続後は［ユーザー登録］、［取扱説明書］、［Q&A］を表示させることができます（画面右側）。終了時には［Logout］をクリックすると、画面を閉じることができます。

●簡単設定

簡単なインターネット接続の設定を行います。設定の詳細については、「PART2 ネットワークに接続しよう」の「本製品の設定をしよう」（P.21）をご覧ください。

●システム設定

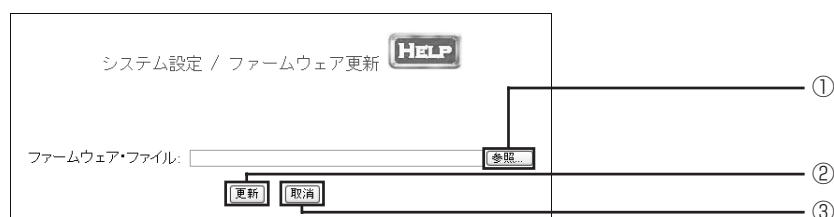
本製品のシステムを変更するときに設定します。変更した後は「システム・リブート」の［実行］をクリックします。

項目名	内容
①管理者ログイン名	本製品の管理者用のログイン名を変更します。設定以降はこのログイン名でユーティリティ設定を行います。 ※工場出荷時は「root」に設定されています。
②管理者ログイン・パスワード	本製品の管理者用のパスワードを設定します。空欄にした場合、設定変更するときにパスワードは入力不要です。 ※工場出荷時は設定されていません。
③パスワードの確認	確認のため、再度②で入力したパスワードを入力します。
④ IP マスカレード・テーブル保持時間	IP マスカレード・テーブルの保持時間を設定します。設定時間を長くすることで、FTP サーバ等への長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続等では設定する必要はありません。
⑤ URL ホーム	設定した URL を Web ブラウザのアドレス欄に入力すると、本製品の設定ユーティリティのトップページを表示させることができます。 ・アドレスには「.」（ドット）を組み込んで 3 ～ 24 文字以内で設定します。 ・「.」（ドット）はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。 ※ 工場出荷時は「corega.home」に設定されています。
⑥ダイレクト PPPoE ※	有効にすると、本製品の PPPoE を使用せずに、パソコン（本製品に接続され、インターネットに接続できるパソコン）のPPPoE接続ツールを使用して直接 PPPoE 接続します。無効にすると、常に本製品の PPPoE 接続機能を使用します。
⑦ルータ機能	「無効」に設定すると本製品を無線アクセスポイントとして使用することができます。

※ PPPoE
ブロードバンドネットワーク上で、LAN上のPPPによるダイヤルアップ機能を擬似的に実現させるソフトウェアのことです。

項目名	内容
⑧無線アクセス ポイント機能	本製品の無線アクセスポイントの使用の有無および無線LANの規格を設定します。「無線アクセス無効」に設定した場合、無線を使用することができなくなります。また、「11g有効」にした場合は802.11b/gのみが、「11a有効」にした場合には802.11aのみが本製品と通信できます。 ※工場出荷時は「11g有効」に設定されています。
⑨Jump Start	米国Atheros Communications, Inc.が開発・提供する、無線LANセキュリティ設定技術です。ジャンプスタート対応の無線LANアダプタと併用することで、ユーザはより簡単に高セキュリティに守られた環境で通信することが可能となります。
⑩時間設定	・自動設定にすると、上位のサーバを通して自動的に時刻を検出して設定します。 ・手動設定にすると、「(西暦)年/月/日」と「時/分/秒」の設定ができます。設定した時刻は、本製品の電源を切るとリセットされます。
⑪工場出荷時の状態 へ戻す	本製品で設定した項目をすべて工場出荷時の状態に戻します(P.85)。 ※今までの設定は消去されますので、実行する前に設定した内容は控えておくことをおすすめします。
⑫システム・リブート	本製品の設定を変更した後に実行します。[実行]をクリックすると、本製品が再起動し、設定した内容が反映されます(P.84)。
⑬設定保存	本製品で設定した項目をパソコンにファイル形式で保存します。設定のバックアップ等にご使用ください(P.83)。
⑭設定読込	⑬で保存した設定情報を読み込みます(P.83)。
⑮ファームウェア更新	本製品のファームウェアを更新します。

■ファームウェア更新

弊社のホームページから最新のファームウェアをダウンロードしてパソコン内に保存することができます。詳しくは、「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」(P.81)をご覧ください。

項目名	内容
①[参照]	ダウンロードなどで入手したファームウェアの保存先を選択するときにクリックします。
②[更新]	本体のファームウェアの更新を開始します。
③[取消]	本体のファームウェアの更新を中断します。

- **更新中は絶対に本製品の電源を切らないでください。**
- **更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新は中断されます。**

●LAN側設定

LAN側のIPアドレス、サブネットマスクを設定します。LAN側のIPアドレスを変更したい場合に設定してください。

項目名	内容
① MAC アドレス	本製品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。
② LAN 側 IP アドレス※1	本製品の LAN 側の IP アドレスを入力します。IP アドレスの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.1」に設定されています。
③サブネットマスク※2	本製品のLANインタフェース※3のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。 ※工場出荷時は「255.255.255.0」に設定されています。

※ 1：IPアドレス
TCP/IPプロトコルを使ったネットワークで、コンピュータを識別するためのアドレスのことです。
※ 2：サブネットマスク
IPアドレスの先頭部分となり、IPアドレスのネットワーク・アドレス部を増やす方法です。
※ 3：インタフェース
2つのものの間で情報のやりとりを仲介するものです。

●WAN側設定

WAN 側の IP 自動取得（DHCP）／IP 固定、PPPoE の設定を行います。設定変更をしたい項目をクリックしてください。変更した後は「システム・リブート」を実行します。

Yahoo! BB、CATV など	IP 自動取得（DHCP）／IP 固定（P.33）
フレッツ・ADSL、B フレッツなど	PPPoE（P.34）

本製品は WAN 側の通信方式を選択できます（通常は変更する必要はありません）。変更する際には、次の画面と表をご覧いただき、お使いの環境に合わせて設定してください。

項目名	内容
①リンク速度	本製品と WAN 側に接続する機器間のリンク速度を選択できます。
② MDI 切替	本製品のWANポートのMDI/MDI-Xを切り替えることができます。

■ IP 自動取得（DHCP）／IP 固定…Yahoo! BB、CATV など

IP アドレスの自動割り当てまたは、固定 IP を割り当てているプロバイダのみでご使用になれます。

項目名	内容
① MAC アドレス	本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。
②タイプ／ IP 自動取得（DHCP）	特に IP アドレス等を指定されていないときは、自動取得にします。プロバイダ（ISP）から自動的に IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSアドレス等、インターネットに必要な情報を取得します。
③タイプ／ IP 固定	インターネット接続に必要な情報を指定されたとき、手動で設定します（次の項目は、「IP 固定」を選択した場合のみ表示されます）。 ・WAN 側 IP アドレス プロバイダ（ISP）から割り当てられたIPアドレスを入力します。 ・サブネットマスク プロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力します。 ・デフォルト・ゲートウェイ プロバイダから割り当てられたゲートウェイアドレスを入力します。
④ドメイン名	プロバイダから指定された場合ドメイン名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。
⑤コンピュータ名	プロバイダから指定された場合コンピュータ名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。
⑥ MTU 値※1	576 から 1500 までの範囲で割り当てることができます。能力の高い接続環境であるほど高い数値を入れると速い速度で送信できます。接続環境に合わせて変更してください。
⑦ DNS サーバ※2	・自動設定 DNS サーバの IP アドレスを知らされていないときや自動割り当ての場合に選択します。 ・マニュアル設定 プロバイダより DNS サーバの IP アドレスが指定されている場合に選択し、IP アドレスを「DNS サーバ 1」「DNS サーバ 2」に入力します。

※ 1：MTU値
　1回の転送で送信できる最大値のことです。。接続環境によって適正値があり、どの環境でも「数値大＝速い」ということではありません。Ethernetは1500、電話回線（ダイヤルアップ回線）は576が適正と言われています。

※ 2：DNSサーバ
　インターネット上のパソコンの名前であるドメイン名を、住所にあたるIPアドレス（4つの数字の列）に変換するコンピュータのことです。

■ PPPoE…フレッツ・ADSL、B フレッツなど

PPPoE アカウント（インターネットに接続する際に必要な ID）の設定をします。

項目名	内容
①セッション -1/-2 設定	WAN 側の PPPoE の設定を行います。
② Account-1 ～ 5	アカウントの名称を変更します。
③接続先設定	接続アカウントを使用する条件を設定します（P.37）。 例：フレッツ・コネクトを利用する場合（P.68）

・セッション -1/-2 設定

PPPoEを使用するときに設定します。設定前にプロバイダより指定された「ユーザ名」（接続ユーザ名）、「パスワード」（接続パスワード）等をご確認ください。

〈セッション -1〉

項目名	内容
①セッション選択	上の画面を表示させるときは「セッション 1」を選択します。
②アカウント選択	・5つのアカウントを登録できます（「セッション 1」で使用したアカウントは「セッション 2」では使用できません)。 ・アカウントを選択して、④〜⑬までの設定を変更し、選択しているアカウントに保存できます。またアカウント名の右側にある［設定］をクリックすると名称を変更できます。
③ MAC アドレス	本製品の WAN 側（インターネット側）MAC アドレスを表示します。
④ユーザ名	プロバイダ（ISP）より指定されたアカウントのユーザ名を入力します。
⑤パスワード	プロバイダより指定されたアカウントのパスワードを入力します。
⑥パスワードの確認	確認のため、再度⑤で入力したパスワードを入力します。
⑦接続方法	■常時接続 常にインターネットへ接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ■トリガ接続 インターネットへの接続が発生したときに、自動的に PPPoE 接続を行います。 ■手動接続 手動で接続しない限りインターネット接続を行いません。接続するときは「WAN 側設定」－「PPPoE」－「状態」（⑰）－「接続」の順にクリックして、接続してください。
⑧無通信時間監視	プロバイダのアクセス・ポイントへの接続後、通信を行わなくなってから自動切断までの時間（分）を入力します（トリガ接続、手動接続のときのみ)。
⑨ MTU 値	「有効」にすると、MTU 値が自動的に調整されます。「無効」にすると、576 バイトから 1492 バイトの範囲で設定できます。
⑩ PPPoE サービス・タイプ	使用する PPPoE のサービスタイプを選択してください。 ■ PPPoE（セッション 2 設定可） 通常のマルチ PPPoE 接続で通信します。 ■ Unnumbered IP（セッション 2 使用不可） 複数のグローバルIP※1を使用するサービスを利用する際に使用します。 ・ルータ IP とサブネットマスクは、本製品の IP アドレスとして同じアドレスが WAN 側／ LAN 側に設定されます。 ・グローバル IP を LAN 側（パソコン側）で使用するときは、LAN 側（パソコン側）でグローバル IP を固定で設定してください。 ■ Unnumbered IP+Private IP（セッション 2 使用不可） 複数のグローバル IP とプライベート IP※2 を同時に使用することができます。 ・Unnumbered IP設定に対してルータIPを設定することで本製品のグローバル IP を使って IP マスカレード※3 機能を使用することができます。 ・グローバル IP を LAN 側（パソコン側）で使用する場合は、LAN 側（パソコン側）でグローバル IP を固定で設定してください。

※ 1：グローバルIP
インターネットで使用されるIPアドレスのことです。グローバルIPアドレスとも呼びます。
※ 2：プライベートIP
イントラネットやLAN組織内で自由に発行できるIPアドレスのことです。プライベートIPアドレスとも呼びます。
※ 3：IPマスカレード
グローバルIPを企業等で1つ持ち、複数のパソコンで共有する機能です。企業内で持つプライベートIPとグローバルIPを相互に変換することで実現できます。

項目名	内容
⑪ルータ IP	プロバイダから割り当てられたIPアドレスを入力してください（⑩でUnnumbered IPおよびUnnumbered IP+Private IPを選択した時のみ）。
⑫サブネットマスク	プロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力してください（⑩で Unnumbered IP および Unnumbered IP+Private IP を選択した時のみ）。
⑬ DNS サーバ	プロバイダから指定された DNS サーバの IP アドレスを入力します。 ■自動設定 　DNS サーバの IP アドレスが自動割り当ての場合に選択します。 　※サーバの値は自動的に設定されます。 ■マニュアル設定 　プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指定されている場合選択し、IP アドレスを入力します。
⑭［設定］	設定変更をした際、保存するときにクリックします。
⑮［取消］	設定変更を取消したいとき、［設定］をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態までキャンセルすることができます。
⑯［戻る］	「PPPoE」画面に戻ります。
⑰［状態］	本製品の現在の状態を表示します。⑦の「接続方法」を「手動接続」にしているときは、［状態］をクリックして「PPPoE1 管理」を開き、［接続］をクリックします。

〈セッション -2〉

項目名	内容
①セッション選択	上の画面を表示させるときは「セッション 2」を選択します。

※ その他の項目はセッション1と同じ設定内容です。

・接続先設定
PPPoE設定画面で登録した「セッション2」経由で接続するネットワークの設定を行います（例：Bフレッツ等）。

1 ［追加］をクリックします。

2 次の画面が表示されるので、各項目を設定してください。

項目名	内容
①接続アカウント	接続するアカウントを選択します。
②ルール選択	接続先に使用するルールを選択します。
③ドメイン名※	接続先のドメイン名を入力します。 例：www.corega.co.jp →「corega」 www.flets →「.flets/」
④ IP アドレス※	接続先の IP アドレスを入力します。 例：http://192.168.10.1 →「192.168.10.1-0」 ftp://192.168.10.1と192.168.10.2→「192.168.10.1-2」
⑤ネットワーク※	接続先の IP アドレスを入力します。 例：http://172.16.XX.XX →「172.16.0.0/16」 ftp://192.168.10.XX →「192.168.10.0/24」
⑥開始／終了ポート※	接続先の開始および終了ポート番号を入力します。 例：http://www.corega.co.jp →「80-80」 ftp://corega.co.jp →「20-21」
⑦ NetBios	NetBiosプロトコルを使用する場合に選択します（通常は選択する必要はありません）。
⑧プロトコル※	使用するプロトコルを選択します。

※「ルール選択」で選択した項目によっては入力できないことがあります。

●無線アクセスポイント設定

無線 LAN のチャンネルや、セキュリティなどの詳細な設定を行います。

■ 802.11b/g 設定

IEEE802.11b/g を選択した場合の通信の設定を行います。

注意 「システム設定」（P.30）の「Jump Start」が「有効」の場合、「802.11b/g 設定」画面は次のようになります（工場出荷時はこの設定です）。

項目名	内容
① ESSID	無線LANに接続する機器を識別する名前です。接続する全てのパソコン（無線 LAN アダプタ）に同じ名前を設定してください。 ※工場出荷時は「Jumpstart-P1-xxxxxx」に設定されています（xxxxxx の部分は製品ごとに異なります）。
②モード	「自動」に設定すると802.11b、802.11gの両方を使用することができます。
③チャンネル	使用する電波の周波数（無線チャンネル）を選択できます。周辺の電波と混信するような場合に変更してみてください。
④ eXtended Range	「有効」に設定すると、「eXtended Range」に対応した無線機器と通信した時、通信距離を伸ばす（最大で 2 倍）ことができます。
⑤ Super モード	「有効」に設定すると「Super A/G」および「Super G」モードを搭載した無線機器と通信した時､バースト転送およびデータ圧縮を行い、通信速度を向上させます。
⑥ステルス AP	「有効」に設定すると無線LANアダプタを持つパソコンから本製品のESSID を検索されないようにできます。またESSIDを「ANY」や空白にしているパソコン（無線LANアダプタ）からのアクセスを拒否することができます。

項目名	内容
⑦ビーコン間隔	アクセスポイントが常に発生している、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を設定します。 ※工場出荷時は「100」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑧ RTS しきい値	有線 LAN から受信したパケットを無線 LAN 側に転送する際に RTS（送信要求）パケットが送信されるしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットを送信する場合にRTS（送信要求）パケットが送られます。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑨パケット分割のしきい値	有線LANから受信したパケットを無線LAN側に転送する際に分割するときのしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットが分割されます。 ※パケット長は、偶数で指定してください。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑩電波強度	本製品の電波出力の強度を設定します。

■ 802.11b/g セキュリティ設定

IEEE802.11b/g のセキュリティの設定を行います。

項目名	内容
①認証方式	WEPを使用したい時は「Open System」または「Shared Key」を、802.1xを使用したい時は「802.1X」を、WPAを使用したい時は「WPA/WPA2-PSK」か「WPA/WPA2-EAP」のどちらかを、WPA2だけで使用する場合は「WPA2-PSK」か「WPA2-EAP」のどちらかを選択します。WPA/WPA2は個人で使用する場合には「PSK」を、企業等で使用する場合には「EAP」を選択するのが一般的です。 ※工場出荷時は「Open System」に設定されています。
②暗号方式	本製品の暗号方式を設定します。①で選択した認証方式によって、選択できる暗号方式も変わります。 WEP： 通信内容を暗号化することにより、通信の解読を防ぎます。 AES： 米国商務省が暗号化標準技術として承認した暗号規格。TKIP より強固な暗号化を施すことが可能です。 TKIP： 一定時間ごとに暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。

項目名	内容
③暗号化	WEPの暗号強度を64／128／152bitのいずれかに選択できます。
④ WEP キー文字列	ASCII文字を入力し、[コード生成] をクリックすると暗号キーが生成されます。 ※ 128bit と 152bit ではキー 1 のみ生成されます。
⑤ WEP キー	WEPキー（暗号キー）を入力し、デフォルトキー（1～4）を選択します。キー1～キー4のそれぞれに、設定する暗号キーを16進数(0～9、a～f)で（64bitのときは10文字、128bitのときは26文字、152bit のときは 32 文字）直接入力してください。
⑥ WPA 共有キー	WPA/WPA2-PSKとWPA2-PSKを選択した場合に「ASCII文字（8～63文字)」を選択し、初回アクセス時に使用する8～63文字（半角英数）の任意の暗号キーを入力します。「16 進数（64 文字)」は「Jump Start」で使用しますので、通常はこちらを選択する必要はありません。
⑦ DTIM	DTIM（配信トラフィック・インディケータ・メッセージ）の通信間隔の値を設定します。 ※工場出荷時は「1」に設定されています（通常は変更する必要はありません)。
⑧プリアンブル・モード	通信時のプリアンブル・モードを設定します。
⑨更新間隔	暗号キーを更新する間隔を秒単位で指定します。
⑩セキュリティ サーバ	802.1x、WPA-EAPを選択した場合にRADIUSサーバの設定を行います（設定内容に関してはネットワーク管理者などにご確認ください)。

メモ **WEP キーには「キー文字列」で生成された16進数か、直接入力した16進数のどちらかをご使用ください。**

■ 802.11a 設定

IEEE802.11a を選択した場合の通信の設定を行います。

注意 **「システム設定」（P.30）の「Jump Start」が「有効」の場合、「802.11a 設定」画面は次のようになります（工場出荷時はこの設定です)。**

項目名	内容
① ESSID	無線LANに接続する機器を識別する名前です。接続する全てのパソコン（無線LANアダプタ）に同じ名前を設定してください。 ※工場出荷時は「Jumpstart-P1-xxxxxx」に設定されています（xxxxxxの部分は製品ごとに異なります）。
②チャンネル	使用する電波の周波数（無線チャンネル）を選択できます。周辺の電波と混信するような場合に変更してみてください。
③ eXtended Range	「有効」に設定すると「eXtended Range」に対応した無線機器と通信した時、通信距離を伸ばす（最大で2倍）ことができます。
④ Superモード	「有効」に設定すると「Super A/G」および「Super G」モードを搭載した無線機器と通信した時、バースト転送およびデータ圧縮を行い、通信速度を向上させます。
⑤ステルスAP	「有効」に設定すると無線LANアダプタを持つパソコンから本製品のESSIDを検索されないようにできます。またESSIDを「ANY」や空白にしているパソコン（無線LANアダプタ）からのアクセスを拒否することができます。
⑥ビーコン間隔	アクセスポイントが常に発生している、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を設定します。 ※工場出荷時は「100」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑦ RTSしきい値	有線LANから受信したパケットを無線LAN側に転送する際にRTS（送信要求）パケットが送信されるしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットを送信する場合にRTS（送信要求）パケットが送られます。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑧パケット分割のしきい値	有線LANから受信したパケットを無線LAN側に転送する際に分割するときのしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットが分割されます。 ※パケット長は、偶数で指定してください。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑨電波強度	本製品の電波出力の強度を設定します。

■ 802.11a セキュリティ設定

IEEE802.11aのセキュリティの設定を行います。

項目名	内容
①認証方式	WEPを使用したい時は「Open System」または「Shared Key」を、８０２.１xを使用したい時は「８０２.１X」を、ＷＰＡを使用したい時は「WPA/WPA2-PSK」か「WPA/WPA2-EAP」のどちらかを、WPA2だけで使用する場合は「WPA2-PSK」か「WPA2-EAP」のどちらかを選択します。WPA/WPA2は個人で使用する場合には「PSK」を、企業等で使用する場合には「EAP」を選択するのが一般的です。 ※工場出荷時は「Open System」に設定されています。
②暗号方式	本製品の暗号方式を設定します。①で選択した認証方式によって、選択できる暗号方式も変わります。 WEP： 通信内容を暗号化することにより、通信の解読を防ぎます。 AES： 米国商務省が暗号化標準技術として承認した暗号規格。TKIPより強固な暗号化を施すことが可能です。 TKIP： 一定時間ごとに暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。
③暗号化	WEPの暗号強度を64／128／152bitのいずれかに選択できます。
④ WEP キー文字列	ASCII文字を入力し、［コード生成］をクリックすると暗号キーが生成されます。 ※ 128bit と 152bit ではキー１のみ生成されます。
⑤ WEP キー	WEPキー（暗号キー）を入力し、デフォルトキー（１～４）を選択します。キー１～キー４のそれぞれに、設定する暗号キーを16進数(0～9、a～f)で（64bitのときは10文字、128bitのときは26文字、152bitのときは32文字）直接入力してください。
⑥ WPA 共有キー	WPA/WPA2-PSKとWPA2-PSKを選択した場合に「ASCII文字（8～63文字）」を選択し、初回アクセス時に使用する８～63文字（半角英数）の任意の暗号キーを入力します。「16進数（64文字）」は「Jump Start」で使用しますので、通常はこちらを選択する必要はありません。
⑦ DTIM	DTIM（配信トラフィック・インディケータ・メッセージ）の通信間隔の値を設定します。 ※工場出荷時は「1」に設定されています（通常は変更する必要はありません）。
⑧更新間隔	暗号キーを更新する間隔を秒単位で指定します。
⑨セキュリティ サーバ	802.1x、WPA-EAPを選択した場合にRADIUSサーバの設定を行います（設定内容に関してはネットワーク管理者などにご確認ください）。

メモ **WEP キーには「キー文字列」で生成された16進数か、直接入力した16進数のどちらかをご使用ください。**

■アクセス制限

アクセス制限を使用する場合の接続を許可する無線クライアントの設定などを行います。

項目名	内容
①無線端末間通信	「有効」を選択するとワイヤレスクライアント同士の通信が可能になります。
②アクセス制限	「有効」を選択するとアクセス制限をすることができます。
③ LAN アクセス制限	すべての無線LANクライアントのアクセスを許可するか、選択した無線 LAN クライアントだけに許可するかの設定をします。
④インターネット アクセス制限	すべてのクライアントのインターネットアクセスを許可するか、選択したクライアントだけに許可するかの設定をします。

■ WDS 設定

WDS（アクセスポイント同士の通信）を使った場合の本製品の通信モードを設定します。

項目名	内容
①アクセスポイント モード	本製品と無線 LAN アダプタを無線で通信させることができます。 ※無線LANアダプタはインフラストラクチャ（Infrastructure）モードに設定してください。
② LAN 間接続モード	LAN間接続モードで設定した製品同士を無線で通信させることができます。接続先の製品の MAC アドレスを入力してください。 ※接続可能台数は最大４台です。
③リピータモード	電波が届きにくい場合でも、リピータモードに設定した本製品を設置して、電波を中継させて通信することができます。接続先の製品の MAC アドレスを入力してください。
④クライアントモード	本製品をパソコンに接続して、無線クライアントとして使用することができます。

●ステータス

各種システム情報を表示します。

項目名	内容
①ファームウェア・バージョン	本製品のファームウェアのバージョンが表示されます。
② Boot Loader Version	本製品のブートローダのバージョンが表示されます。
③システム稼動時間	本製品を起動してからの経過時間が表示されます。
④ LAN 状態	■ MAC アドレス 本製品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ■サブネットマスク 本製品の LAN 側のサブネットマスクが表示されます。 ■ IP アドレス 本製品の LAN 側の IP アドレスが表示されます。 ■ DHCP DHCP の状態（有効／無効）を表示します。 ■ DHCP 開始アドレス DHCP サーバでリース開始の IP アドレスが表示されます。 ■ DHCP 終了ドレス DHCP サーバでリース終了の IP アドレスが表示されます。
⑤無線状態	■ドライバ・バージョン 本製品のファームウェアに含まれる、無線ドライバのバージョンが表示されます。 ■ MAC アドレス 本製品の無線 LAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ■モード 無線 LAN の規格と有効／無効が表示されます。 ■セキュリティ 無線 LAN のセキュリティの状態が表示されます。 ■チャンネル 無線 LAN で使用されているチャンネルが表示されます。 ■ ESSID 無線 LAN の ESSID が表示されます。

項目名	内容
⑥ WAN 状態	■ MAC アドレス 本製品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ■ WAN1 ／ WAN2 WAN 側接続がどの種類で接続されているかが表示されます。 ■アカウント アカウントごとの接続状態が表示されます。

●ヘルプ

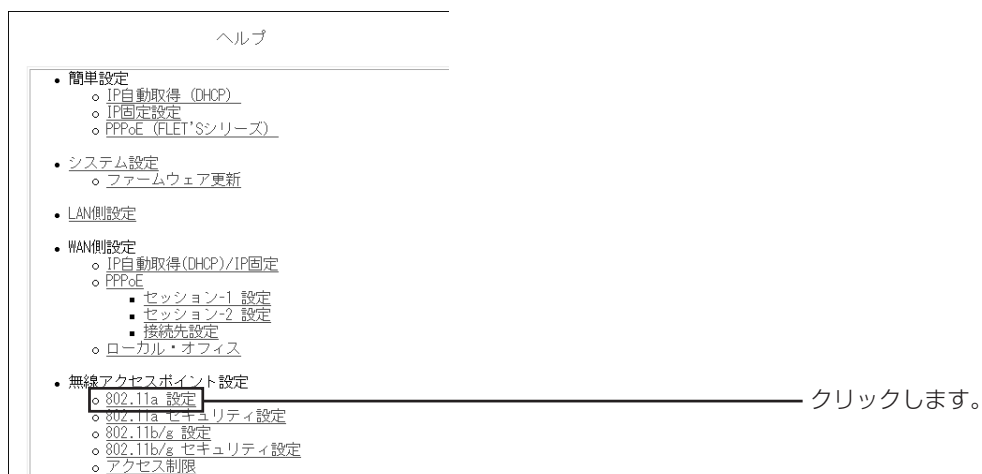
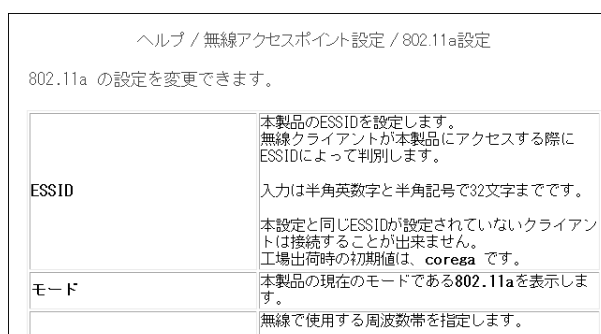
本製品の各項目の説明をご覧になることができます。メニューリストの「ヘルプ」か、各画面にある［ヘルプ］をクリックしてください。

1　メニューリスト（画面左）に表示されている「ヘルプ」をクリックします。

2　ヘルプ全体の項目が表示されます。

3　各画面の説明が表示されます。

ヘルプ / 無線アクセスポイント設定 / 802.11a設定

802.11a の設定を変更できます。

ESSID	本製品のESSIDを設定します。 無線クライアントが本製品にアクセスする際にESSIDによって判別します。 入力は半角英数字と半角記号で32文字までです。 本設定と同じESSIDが設定されていないクライアントは接続することが出来ません。 工場出荷時の初期値は、corega です。
モード	本製品の現在のモードである802.11aを表示します。
	無線で使用する周波数帯を指定します。

●詳細設定

■バーチャル・サーバ

インターネット（WAN 側）から本製品のパソコン（LAN 側）上にアクセスできるようにして、外部にサーバを公開することができます。設定するときは、次の画面の①のプルダウンメニューを「有効」にし、[追加] をクリックして、表示された画面で設定を行ってください。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

・パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。
・ダイナミック DNS（DDNS）機能を使用することで、より簡単にインターネット上から LAN 上のサーバに接続することができます。

メモ

インターネット上のホストが行う本製品のWAN側IPアドレスとポート番号を指定したアクセスは、バーチャルサーバ機能によって指定された接続先（パソコン）にアクセスします。同じ LAN 内で同種類のサーバを立ち上げたいときは、ポート番号が重複しないようにしてください。

項目名	内容
①バーチャル・サーバ	バーチャル・サーバの有効／無効を選択します。選択を変えたときは［設定］をクリックします。「有効」にするとサーバをインターネット上に公開することができます。
②UPnP 使用ポート情報	現在、UPnP が使用しているポートの一覧を表示します（P.62）。 ※ UPnP は Windows XP でご使用になれます。
③バーチャル・サーバ	バーチャル・サーバの有効／無効を表示します。「有効」にするとサーバをインターネット上に公開することができます。
④接続先	サーバとなるパソコンを設定します。
⑤プロトコル	バーチャルサーバで使用するプロトコルを設定します。 ・すでに登録されているプロトコルをご使用になるときは、そのプロトコル名を選択してください。 ・追加登録したいプロトコルがある場合は「ユーザ定義」を選択して、⑥、⑦で登録したいプロトコルの使用ポート番号を入力します。
⑥入力開始／終了ポート	インターネット上からLAN上のサーバに接続するための開始～終了のポート番号を設定します。管理者の任意のポート番号を入力します。 例：入力ポート番号を 50 ～ 100 に設定する場合→開始 =50、終了 =100 ※すでに登録されているプロトコルを選択したときは、自動的にポート番号が入ります。
⑦出力開始／終了ポート	サーバソフトが使用する開始～終了のポート番号を設定します。管理者の任意のポート番号を入力します。 例：出力ポート番号を 150 ～ 200 に設定する場合→開始=150、終了 =200 ※既に登録されているプロトコルを選択したときは、自動的にポート番号が入ります。
⑧サービス・タイプ	バーチャルサーバの対象となるIPタイプを指定します。特定のプロトコルを選択することによりTCPまたはUDPもしくは両方のポート番号を動作させます。
⑨備考	バーチャルサーバの説明を入力します。

メモ **④の接続先で、サーバとなるパソコンが表示されない場合、PCデータベースでサーバとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「PC データベース」（P.57）をご覧ください。**

■スペシャル・アプリケーション

ルータ等によって動作しない一部のインターネット使用アプリケーションを、スペシャル・アプリケーションに登録します。インターネットを使用するアプリケーションが動作しない場合に登録してください。登録の際には、アプリケーションのメーカから、設定に関する情報を入手する必要がありますので、情報を確認して設定を行ってください。入力ポート番号、出力ポート番号はそれぞれパソコンからの入力、出力を意味しています。本設定を行ってもアプリケーションが動作しない場合は、DMZ 機能（次ページ）をお試しください。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内容
①名称	スペシャル・アプリケーションに登録する任意の名称を入力し、使用する番号にチェックを入れます（半角 12 文字、全角 6 文字まで）。
②入力	■タイプ スペシャルアプリケーションを使用するときのプロトコル（TCPまたは UDP）を選択してください。 ※アプリケーションによっては入力および出力で異なるプロトコルを使用するものもあります。 ■ポート番号（アプリケーションメーカーからの情報を確認する） パソコンがデータを受信する際に、アプリケーションサーバによって使用されるポート範囲の始まり～終わりの番号を入力します。アプリケーションが 1 つのポートを使用する場合は、開始および終了に同じ番号を入力してください。 例：50 ～ 100 に設定するとき…50-100 65 に設定するとき…65
③出力	■タイプ スペシャルアプリケーションを使用するときのプロトコルを選択してください。 ※アプリケーションによっては入力および出力で異なるプロトコルを使用するものもあります。 ■ポート番号（アプリケーションメーカーからの情報を確認する） パソコンがデータを送信する際に、アプリケーション サーバによって使用されるポート範囲の始まり～終わりの番号を入力します。アプリケーションが 1 つのポートを使用する場合は、開始および終了に同じ番号を入力してください。 例：150 ～ 200 に設定するとき…150-200 70 に設定するとき…70

■ DMZ

LAN上のコンピュータ（DMZホスト）に全ての入出力アクセスを可能とします。スペシャルアプリケーション機能を使用できなかったときなどに設定します。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内容
① DMZ	DMZ 機能の有効／無効を選択します。
② PPPoE アカウント選択	DMZ 機能を使用するPPPoEアカウントを選択します（PPPoE接続の時のみ表示されます）。
③ LAN 側 IP アドレス	DMZ 機能を使用時に外部からアクセス可能にするコンピュータの IP アドレスを指定します。

- **DMZ機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。**
- **工場出荷時の状態では、DMZ 機能は「無効」、LAN 側 IP アドレスは「192.168.1.0」となっています。DMZ 機能を「有効」に変更しても、対象となるパソコンの IP アドレスを指定しないと DMZ は有効になりませんのでご注意ください。**

■ダイナミック DNS（DDNS）

インターネット側からIP アドレスではなくURL（ドメインネーム）を使用してLAN 内のバーチャルサーバなどに接続できます。本機能を使用することによって、ダイナミックIP アドレスのような、IP アドレスが固定されないサービスに対応します。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

・ダイナミック DNS の設定

1　DDNS サービスに登録手続きをします。登録はDynDNS.org（無料サービス）とIvyNetwork（有料サービス）、「@Net DDNS」（有料サービス／「@NetHome」会員のみ）の３つから選択できます。登録手続きをすると、後からユーザ登録確認メールが送信されてきます。

2　登録した際に受け取った情報をもとに、ログイン名、ログインパスワード、ドメイン名を入力して保存します。

3　本製品の再起動をします。再起動の方法は「本製品を再起動する」（P.84）をご覧ください。

4　本製品はその時点で使用しているIPアドレスを、設定したDDNSサービスに自動的に記録します。設定したダイナミック DNS を使用して、バーチャルサーバ等への接続が可能になります。

・PPPoE モードの選択時の設定項目

PPPoE モードを選択しているときは、アカウントごとに設定できる項目があります。

項目名	内容
① PPPoE セッション選択	PPPoE アカウントを選択します。 ※ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②ダイナミック DNS	ご利用になる DNS サービスを選択します。
③ログイン名	DNS サービスに登録したログイン名を入力します。
④ログインパスワード	DNS サービスに登録したパスワードを入力します。
⑤ドメイン名	DNSサービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。
⑥ IP チェック時間	取得したドメイン名と IP アドレスの整合性を指定時間で確認します。

■セキュリティ

変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内容
①各種セキュリティ設定	「有効」を選択すると各種セキュリティの設定が可能になります。
②ステルスモード	「無効」を選択すると、インターネット側（WAN 側）から PING リクエスト（通信確認リクエスト）があった際に応答します。「有効」を選択すると PING に応答しなくなります。 ※ PING に応答することによって、インターネット側から本製品の存在を確認できます。相手によってはお互いの存在を確認しながらインターネット接続を始めるものもありますので、その際には「無効」を選択してください。
③アクセス制限	インターネット接続できるパソコンや時間を制限することができます。詳細は本ページの「アクセス制限」をご覧ください。
④ URL フィルタ	指定した文字列が含まれるURLおよびキーワードを含んだアクセスを制限することができます。詳細は「URL フィルタ」（P.53）をご覧ください。
⑤スケジュール	ここで指定する時間にセキュリティを実行することができます。詳細は「スケジュール設定」（P.54）をご覧ください。
⑥ファイアウォール	本製品のファイアウォール機能を、3 つのレベルから選択することができます。
⑦ E-mail 機能	DoS アタックがあったときなどに、ここで指定する E-mail アドレスに通知することができます。

・アクセス制限設定

項目名	内容
①アクセス制限	アクセス制限機能の有効／無効が選択できます。アクセス制限をする場合は、「有効」にチェックを付け、「アクセス制限の追加」をクリックして詳細な設定をしてください。詳細は本ページの「アクセス制限追加」をご覧ください。

・アクセス制限追加

詳細なアクセス制限を設定します。アクセス制限は最大 10 個まで登録できます。

項目名	内容
①説明	アクセス制限の説明をつけることができます。
②制限する IP アドレス	アクセスを制限したいパソコンのIPアドレスを含んだ、IPアドレスの範囲を登録します。
③制限するサービス	アクセス制限をするサービスを、登録されているサービス一覧の中から指定して制限をかけることができます。
④制限するサービス（ユーザ定義）	登録されているサービス一覧にない場合、任意のポートを指定してアクセスを制限することができます。
⑤スケジューリング	「スケジュール」で指定した時間にアクセス制限をかけることができます。詳細は「スケジュール設定」（P.54）をご覧ください。

・URL フィルタ設定

接続を制限したいURLもしくはキーワードを登録しておくと、その文字列を含むURLがブロックされます。30 件まで登録することができます。

項目名	内容
① URL または キーワード	アクセスを制限したい URL やキーワードを登録します。 例：violence
② [全設定削除]	クリックすると、登録してある文字列をすべて削除します。

・スケジュール設定

ここで設定した時間帯にアクセス制限を行うことができます。設定した時間帯は「アクセス制限」で指定して実行してください。

項目名	内容
①名前	スケジュールに任意の名前を付けることができます。
②コメント	任意の説明文を付けることができます。
③スケジュール	ここで時間帯を設定します。時間は24時間表記で入力してください。 ■曜日 制限したい曜日の「開始時間」と「終了時間」に数値を入力してください。 ■開始時間 制限を開始する時間を入力してください。 ■終了時間 制限を開始する時間を入力してください。

・E-mail 設定

DoS アタック等の不正アクセスがあった場合に、ここで登録したE-mail アドレスに、本製品から自動的にメールを送信してお知らせすることができます。

項目名	内容
①メールアドレス	警告メールを送信する宛先（メールアドレス）を入力します。
② SMTP サーバ名	本製品が使用するメールアドレスのSMTP（送信用）サーバの名称を入力します。
③ POP3 サーバ名	本製品が使用するメールアドレスのPOP3（受信用）サーバの名称を入力します。
④ユーザ名	本製品が使用するメールアドレスのユーザ名を入力します。
⑤パスワード	本製品が使用するメールアドレスのパスワードを入力します。

■ DHCP サーバ

DHCP サーバの設定を変更したいときに各項目の設定を行います。変更した後は「システム設定」−「システム・リブート」を実行します。

項目名	内容
① DHCP サーバ	DHCP機能の有効／無効を選択します。有効にすると自動的にパソコンに IP アドレスを割り振ります。
②リース期限継続方法	DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限継続方法を選択します。期限指定／無期限の指定ができます。
③リース期限	DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限を指定します。※②を期限指定に指定している場合に設定できます。
④ DHCP 開始アドレス	DHCP サーバでリース開始の IP アドレスを入力します。※工場出荷時は「192.168.1.11」で設定されています。
⑤ DHCP 終了アドレス	DHCP サーバでリース終了の IP アドレスを入力します。※工場出荷時は「192.168.1.60」で設定されています。

■ PC データベース

本製品に接続するクライアントパソコンのIPアドレスを登録することができます。変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

項目名	内容
①パソコン名	クライアントパソコンの「ホスト名」を入力します。
② IP アドレス	IP アドレスの取得方法を選択してください。 ■自動取得（DHCP クライアント） パソコンがDHCPクライアント（Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」）に設定している場合、本製品はこのパソコンにIPアドレスを提供します。IPアドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合やネットワークから長時間パソコンから取り外された状態で再接続した際に変わることがあります。 ■固定取得（DHCP クライアント） パソコンがDHCPクライアント（Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」）に設定している場合、毎回決まったIPアドレスを取得したいときに選択します。最後の空欄に 1 ～ 254 までの任意の数字を入力してください。 ■固定設定（DHCP 範囲以外） パソコンが固定IPアドレスを使用している場合は、これを選択してください。 ※「接続タイプ」は、有線接続しているパソコンは「LAN」を、無線接続しているパソコンは「WLAN」を選択してください。

項目名	内容
③ MAC アドレス	適切なオプションを選択してください。 ■自動検索 本製品がパソコンと通信し、そのパソコンの MAC アドレスを自動取得するようにします。パソコンがLANに接続されている状態でお使いください。 ■ MAC アドレスは 直接パソコンのMACアドレスを入力してください。MACアドレスは「ハードウェアアドレス」「物理アドレス」または「ネットワークアダプタアドレス」と呼ばれることがあります。本製品は各パソコンを個別に認識するためにこれを使用しますので、MACアドレスは空白にしたままでの使用はできません。
④［PC データ追加］	パソコンデータを使用して本製品のリストに新しいパソコンを加えることができます。MAC アドレス「自動検索」が選択されている場合、パソコンに「Ping」を送り、その MAC アドレスを登録します。
⑤［データの削除］	画面上で入力した値をクリアすることができます。
⑥［戻る］	標準「PC データベース」（上の画面）に戻るときにクリックします。

■ログ表示

・アタック ログ

DoS アタック※が発生した際に、そのログを保存します。

※DoSアタック
インターネットにつながっているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの1つです。

・DHCP ログ

本製品の DHCP サーバ機能の稼動状況を表示します。

・システムログ

本製品へのアクセス履歴などを表示します。

■ルーティング
「PART4 こんなときにはこの設定」の「スタティックルートの設定」(P.71)に記載されている使用例をご覧ください。変更した後は「システム設定」−「システム・リブート」を実行します。

・スタティック

項目名	内容
①ネットワーク・アドレス	対象となるネットワークのIPアドレス(ネットワークアドレス)を入力します。
②サブネットマスク	対象となるネットワークのサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ※	対象となるネットワークにパケットを送るためのゲートウェイもしくは本製品のIPアドレスを入力します。

※ゲートウェイ
異なるプロトコルを相互接続するために変換させるハードウェアやソフトウェアのことです。

・ダイナミック(RIP)
ダイナミック(RIP)は、ルータ間でルーティング情報をやり取りすることで、パケット転送のルートを決定します。

項目名	内容
① LAN側RIP送信	LAN側にRIPを送信する場合は、お使いになるRIPのバージョンを選択します。使用しない場合は「無効」を選択します。
② LAN側RIP受信	LAN側からRIPを受信する場合は、お使いになるRIPのバージョンを選択します。使用しない場合は「無効」を選択します。

※RIP(リップ)
ルータ間で使用されるプロトコルの一つで、ルーティング情報の交換などに使用されます。

・レポート
ルーティングの現在の状態を表示します。［更新］をクリックすると、最新の情報を表示します。

詳細設定 / ルーティング / レポート

接続先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	インタフェース	タイプ
192.168.1.0	255.255.255.0	ダイレクト	---	LAN	C

C - ダイレクト接続，S - 静的ルーティング，R - RIP（動的ルーティング），I - ICMPリダイレクト

更新

■その他各種設定
変更した後は「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

・バックアップ DNS
通常のインターネット接続等の場合には使用しません。

項目名	内容
①バックアップ DNS	バックアップ DNS の機能を使用するときに「有効」に設定します。
②DNS サーバ１／ DNS サーバ２	①で「有効」を設定したとき、入力することができます。バックアップ用の DNS サーバのアドレスを入力します。

・リモート
インターネット（WAN 側）から本製品の設定をしたいときに、この項目の設定を行います。

項目名	内容
①リモート設定	リモート設定を有効／無効に設定します。有効にするとインターネット側（WAN 側）から本製品の設定を可能にします。
②ポート	1 ～ 9600 の範囲でポート番号を入力してください。 ※工場出荷時は 8080 です。 インターネット側からの接続の際、下記のようにIPアドレスの後ろに「:ポート番号」を指定してください。 例：http://WAN 側 IP アドレス:ポート番号

リモート機能で設定したポート番号は、バーチャルサーバなどでは使用できません。

・PING テスト
任意のコンピュータに PING※を使ってテストができます。

項目名	内容
①宛先アドレス	テストしたい相手のコンピュータの IP アドレスを入力します。
②[実行]	①で相手のアドレスを入力後、[実行]をクリックするとPINGテストを開始します。テスト結果は下の欄に表示されます。

※PING
コンピュータが通信可能な状態かどうか確かめるためのプログラムです。

・UPnP 設定

UPnP 機能を使用するときに、この項目の設定を行います。

※PPPoE接続の場合の画面例です。

項目名	内容
① UPnP 使用ポート	クリックすると UPnP で使用しているポートを確認できます。
② UPnP を使用する	UPnP の有効／無効を選択します。 ※ UPnP 機能は Windows XP でご使用になれます。
③アプリケーションで WAN IP を選択する	UPnP対応アプリケーションでWAN IPを選択する場合に使用します。
④WAN 側 IP のセッションを選択する	手動で UPnP を使用する WANIP（セッション）を選択する場合に使用します。
⑤WAN の切断機能を有効にする	WAN の切断機能の有効／無効を選択します。有効にすると UPnP 機能を使用して WAN（インターネット側）を切断することができます。

・パススルー

各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。

項目名	内容
① VPN パススルー	VPN パススルーの有効／無効を選択します。
② IPv6 ブリッジ	IPv6 ブリッジの有効／無効を選択します。

PART 4

こんなときにはこの設定

ネットワークゲームや音声／ビデオチャットなど、ネットワーク上から各パソコンに直接アクセスする必要がある場合は、本製品の設定を変更する必要があります。このPARTでは、本製品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームをするには、ゲームサーバとデータの送受信を行うポートを利用可能にするために、UPnP設定やスペシャルアプリケーション設定などで本製品に設定する必要があります。

お使いの回線やプロバイダ（ISP）によっては、ネットワークゲームに対応していない場合がありますので、ご注意ください。

●UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本製品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本製品の設定が行われます。設定ユーティリティで次の設定を行います。

1　設定をするアカウントを選択し、「その他各種設定」－「UPnP」（P.62）で、「UPnPを使用する」を「有効」にします。

- **Windowsにて、ユニバーサル プラグ アンド プレイ（UPnP）に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windowsの修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoftにお問い合わせください。**
- **UPnP機能は、Windows XPでご使用いただけます。**

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームの場合は、次のいずれかの方法で設定します。

■ネットワークゲームが使用するポート番号が分かる場合
使用するポート番号、タイプが分かっている場合は、設定ユーティリティで次の設定を行います。

「詳細設定」－「スペシャル・アプリケーション」（P.48）で、ネットワークゲーム会社より指定されている使用ポート番号とタイプ（プロトコルのタイプ）を設定します。

メモ　**ネットワークゲームが使用するポート番号、タイプ（プロトコルのタイプ）については、各ネットワークゲーム会社にお問い合わせください。**

■ネットワークゲームが使用するポート番号が分からない、または毎回変更される場合
DMZ 機能を使います。設定ユーティリティで次の設定を行います。

1　「詳細設定」－「DMZ」（P.49）をクリックします。

2　「DMZ」を「有効」にします（PPPoE で接続されている場合（フレッツ・ADSL、B フレッツなど）、「PPPoE アカウント選択」でアカウントを選択します）。

3　ホストとなるパソコンの IP アドレスを入力して、[設定] をクリックします。

〈PPPoE 設定をしている場合（フレッツ・ADSL、B フレッツなど）の画面〉

〈PPPoE 設定をしていない場合（Yahoo! BB、CATV など）の画面〉

注意　**DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。**

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは、代表的なソフトとして、NetMeeting 、MSN　Messenger を利用する場合の設定を説明しています。本製品は、NetMeeting、MSN Messenger（Ver.6.2 以降）に対応しています。各アプリケーションの使い方は、各ソフトのヘルプやホームページをご覧ください。

●NetMeeting

ここでは、DMZ 機能を使います。「詳細設定」－「DMZ」（P.49）で NetMeeting を使用するパソコンを選択してください。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本製品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

●MSN Messenger（Ver.6.2以降）

本製品は UPnP に対応しているので、MSN Messenger を利用する際は、自動的に本製品の設定が行われます。

1　設定ユーティリティの「その他各種設定」－「UPnP」（P.62）をクリックして、画面を開きます。

2　「UPnP を使用する」を「有効」にします。

・MSN Messenger、NetMeeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。
・MSN Messenger は Ver. 6.2 で動作確認しております。
・対応 OS は Windows XP Service Pack1（SP1）以降のみです。

3　「使用ポート」をクリックして、ポートの状態を確認します。

外部にサーバを公開するには

●バーチャル･サーバを使用する

バーチャル・サーバ機能を利用して外部にサーバを公開する設定例です。

1 ［詳細設定］－「バーチャル・サーバ」をクリックします。

2 「バーチャル・サーバ」の「有効」を選択します。

3 ［追加］をクリックして、接続先のパソコンを選択し、「プロトコル」と「サービスタイプ」を設定します。

「入力ポート番号」および「出力ポート番号」は、「プロトコル」で「ユーザ定義」を選択した場合に、任意の数値を入力します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」の「バーチャル･サーバ」（P.46）をご覧ください。

●ダイナミックDNSを使用してURLでアクセスする

インターネット側からドメインネーム（URL）を使用して、バーチャル・サーバなどに接続することができる設定例です。

1 本製品がインターネットに接続しているときに、「ダイナミックDNS」画面にある「DynDNS.org」（無料サービス）または「IvyNetWork」（有料サービス）を選択して設定を行います。そのときの「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」は控えておいてください。

2 本製品の「ダイナミックDNS」画面に戻り、手順1で設定した「ログイン名」、「ログインパスワード」および「ドメイン名」を入力し、［設定］をクリックします。

詳しくは「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」の「ダイナミックDNS」（P.50）をご覧ください。

「@Net DDNS」（有料サービス／「@NetHome」会員のみ）をご利用いただく場合は、加入者サポートページより、家庭内ネットワーク内のダイナミックDNS（ホームモニタリング）からお申し込みください。

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには

（プロバイダと、フレッツ・スクウェアフレッツ・コネクト／フレッツ・コミュニケーションを利用する）

●プロバイダとフレッツ･スクウェアに接続する

通常はプロバイダに接続しますが、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続させることができます。「フレッツ・スクウェア」を利用するには、「セッション2」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション-1のAccount-1」に、「フレッツ・スクウェア」への接続設定を「セッション-2のAccount-2」に設定する場合

1 通常のプロバイダの設定を行います。「WAN側設定」をクリックしし、「PPPoE」画面で「セッション-1」をクリックします。

2 「セッション選択」は「セッション-1」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します（例として「Account-1」を選択します）。

3 通常のプロバイダから通知された内容（「ユーザ名」、「パスワード」）を入力し、「PPPoEサービス・タイプ」は「PPPoE」を選択して、［設定］をクリックします。

4 次にフレッツ・スクウェアの設定を行います。「セッション選択」は「セッション-2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します（例として「Account-2」を選択します）。

5 「ユーザ名」と「パスワード」は、それぞれ下記の表の内容で入力します。「DNSサーバ」は「自動設定」を選択します。

	NTT東日本のエリアのお客様	NTT西日本のエリアのお客様
ユーザ名	guest@flets	flets@flets
パスワード	guest	flets

（2005年5月現在）

6 「DNSサーバ」は「自動設定」をクリックします。

7 画面上側にある「PPPoE」のラジオボタンをクリックし、「PPPoE」画面が表示されたら「接続先設定」をクリックします。

8 ［追加］をクリックして追加画面を表示させます。

9 「接続アカウント」を「Account-2（S2)」を選択します（「(S2)」はセッション2を示します）。

10 「ルール選択」で「ドメイン名」を選択し、「.flets/」と入力します。

11 ［設定］をクリックします。

12 「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」の「PPPoE」（P.34）をご覧ください。

●フレッツ･コネクト(NTT東日本)を利用する

フレッツ・コネクトは、B フレッツ、フレッツ、フレッツ・ADSL をご利用のお客さま同士による、IP 電話機能などの音声・映像・データによる多彩な通信サービスを提供します。簡単な番号（コネクトID）により相手先のIPアドレスを意識することなく接続できます。フレッツ・コネクトを利用するには、「セッション２」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション -1 の Account-1」に、「フレッツ・コネクト」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する。

1　P.67 の手順 1 〜 3 をご覧になり、通常のプロバイダへの接続設定を行います。

2　次にフレッツ・コネクトの設定を行います。「セッション選択」は「セッション -2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します。例として「Account-2」を選択します。

3　フレッツ・コネクトで使用する「ユーザ名」、「パスワード」をそれぞれ入力します。

4　「DNS サーバ」は「自動設定」を選択します。［設定］をクリックし、［戻る］をクリックします。

5　「接続先設定」をクリックして、フレッツコネクトの追加設定をします。

①　［追加］をクリックして追加画面を表示させます。「アカウント選択」は「Account-2（S2)」、「ルール選択」を「ネットワーク」にして、「172.0.0.0/8」を入力し、［設定］をクリックします。接続先設定画面に戻ります。

②　［追加］をクリックして追加画面を表示させます。「アカウント選択」は「Account-2（S2)」、「ルール選択」を「ドメイン名」にして、「.flets/」を入力し、［設定］をクリックします。

③　［追加］をクリックして追加画面を表示させます。「アカウント選択」は「Account-2（S2)」、「ルール選択」を「ドメイン名」にして、「.connect」を入力して［設定］をクリックします。

①〜③の「アカウント選択」は必ず同一のアカウントにしてください。

6　「接続先設定」画面の一覧に「172.0.0.0/8」「.flets/」「.connect」が登録されていることを確認して［戻る］をクリックし、PPPoE の設定画面に戻ります。

7　［戻る］をクリックします。

8　「その他各種設定」をクリックします。

9　「UPnP」をクリックして、「UPnP を使用する」の「有効」を選択し、「WAN 側 IP のセッションを選択する」と「セッション２」を選択して［設定］をクリックします。

10「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

以上で、フレッツ・コネクトを利用するための本製品の設定は終わりです。ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コネクトをご利用ください。

- **PPPoE ブリッジ接続でフレッツ・コネクトを使用する場合は、「フレッツ・コネクト」セットアップガイドをご覧ください。**
- **フレッツ・コネクトをセッション 1 に設定した場合は、MSN Messenger などのメッセンジャーソフトはご利用できません。**
- **UPnP を使用するセッションをフレッツ・コネクトで接続するため、MSN Messenger などのメッセンジャーソフトはご利用できません。**

●フレッツ・コミュニケーション(NTT西日本)を利用する

フレッツ・コミュニケーションは、B フレッツ、フレッツ・ADSL をご利用のお客さま同士による、IP 電話機能などの音声・映像・データによる多彩な通信サービスを提供します。簡単な番号（コネクト ID）により相手先の IP アドレスを意識することなく接続できます。「フレッツ・コミュニケーション」を利用するには、「セッション 2」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「アカウント 1 の Account-1」に、「フレッツ・コミュニケーション」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する。

1 P.67 の手順 1 ～ 3 をご覧になり、通常のプロバイダへの接続設定を行います。

2 次にフレッツ・コミュニケーションの設定を行います。「セッション選択」は「セッション -2」を選択し、フレッツ・コミュニケーションで使用する「ユーザ名」、「パスワード」をそれぞれ入力します。

3 「DNS サーバ」は「自動設定」を選択します。

4 ［設定］をクリックして設定内容を保存し、［戻る］をクリックします。

5 「接続先設定」－［追加］をクリックして「接続先設定」画面を表示させます。

6 「接続先設定」をクリックして、フレッツ・コミュニケーションの追加設定をします。

① ［追加］をクリックして追加画面を表示させます。「アカウント選択」は「Account-2（S2)」、「ルール選択」を「ネットワーク」にして、「219.111.224.0/20」を入力し、［設定］をクリックします。「接続先設定」画面に戻ります。

② ［追加］をクリックして追加画面を表示させます。「アカウント選択」は「Account-2（S2)」、「ルール選択」を「ドメイン名」にして、「.flets-c.jp」を入力し、［設定］をクリックします。

①と②の「アカウント選択」は必ず同一のアカウントにしてください。

7 「接続先設定」画面の一覧に「219.111.224.0/20」「.flets-c.jp」が登録されていることを確認して［戻る］をクリックし、PPPoE の設定画面に戻ります。

8 ［戻る］をクリックします。

9 「その他各種設定」をクリックします。

10 「UPnP」をクリックして、「UPnP を使用する」の「有効」を選択し、「WAN 側 IP のセッションを選択する」と「セッション 2」を選択して［設定］をクリックします。

11 「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

以上で、フレッツ・コミュニケーションを利用するための本製品の設定は終わりです。ネットワークコミュニケーションソフトを起動して、フレッツ・コミュニケーションをご利用ください。

UPnP を使用するセッションをフレッツ・コミュニケーションで接続するため、MSN Messenger などのメッセンジャーソフトはご利用できません。

●複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered利用）

各プロバイダが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本製品および本製品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバ公開などが可能になります。

例：本製品の元の設定…IP アドレスが「192.168.1.1」サブネットマスクが「255.255.255.0」

項目名	プロバイダからの情報
IP アドレス	XXX.○○○.□□□.113～XXX.○○○.□□□.120
サブネットマスク	255.255.255.◆◆◆
DNS サーバ	12.34.56.12

設定するパソコンの IP アドレスを「XXX.○○○.□□□.115」と設定したい場合

1　「WAN 側設定」－「PPPoE」画面を表示させて、任意のアカウントを選択して、「ユーザ名」、「ユーザパスワード」を入力します。

2　その他を以下のように設定します。
・PPPoE サービス・タイプ→「Unnumbered IP」にします。
・ルータ IP→「XXX.○○○.□□□.113」と入力します（プロバイダから割り当てられた最初の IP アドレスが入ります)。
・サブネットマスク→「255.255.255.◆◆◆」と入力します。
・DNS サーバ→「マニュアル設定」をクリックし、「DNS サーバ 1」に「12.34.56.12」と入力します。

3　［設定］をクリックします。

4　「システム設定」－「システム・リブート」の実行をクリックします。

5　設定するパソコンの固定 IP アドレスを以下のように変更します。

・IP アドレス→「XXX.○○○.□□□.115」（設定したい IP アドレス）
・サブネットマスク→「255.255.255.◆◆◆」
・デフォルトゲートウェイ→「XXX.○○○.□□□.113」（ルータ IP と同じで可）

TCP/IP の変更方法については、本書の「PART2 ネットワークに接続しよう」の「パソコンのネットワークを設定しよう」（P.7～）をご覧いただくか、各 OS の取扱説明書をご覧ください。

6　本製品の設定画面に再度アクセスする場合は、Web ブラウザのアドレス欄に入力する IP アドレスを「WAN 側設定」で設定した「XXX.○○○.□□□.113」と入力します。

詳しくは、「PART3 設定ユーティリティを見てみよう」の「PPPoE」（P.34）をご覧ください。

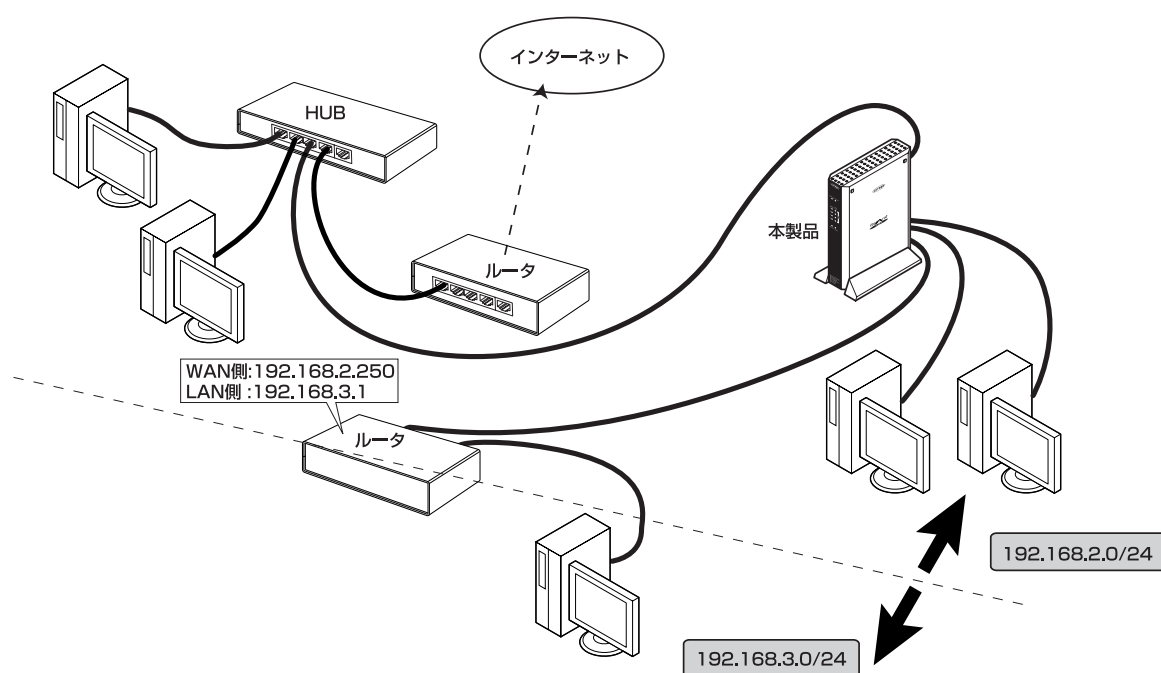
Unnumberedを利用する場合は、LAN側のパソコンに固定IPアドレスを設定する必要があります。

その他のルーティング設定例

ここでは本製品の下位にルータを追加する場合を説明します。

● スタティックルートの設定

隣接するルータが RIP に対応していない場合は、手動で通信経路を指定します。

例：「ネットワーク・アドレス：192.168.3.0、サブネットマスク：255.255.255.0」というネットワークを追加する。

※接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。
※ 192.168.3 で始まる IP アドレスへの通信はすべて 192.168.2.250 に転送

1　設定画面から「詳細設定」－「ルーティング」－「スタティック」をクリックし、［追加］をクリックして次の設定を行います。

①　ネットワーク・アドレスには、通信の宛先となるネットワークアドレスを入力してください。（例：192.168.3.0）

②　サブネットマスクには、ネットワークアドレスのサブネットマスクを入力します。（例：255.255.255.0）

③　ゲートウェイは、経路となるルータの IP アドレスを入力してください。
（例：192.168.2.250）

2　［設定］をクリックし、ルーティング画面で設定を追加します。

3　「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

● RIPの設定

LAN 側に別途ルータが存在する場合は、そのルーティング経路を本製品に設定する必要があります。本製品はダイナミックルーティングプロトコルである RIP 機能に対応していて、隣接するルータと RIP によって、自動的に経路の情報を交換できます。

隣接するルータがRIPに対応していないときは、手動でルート設定をする必要があります。設定方法については「スタティックルートの設定」（P.71）をご覧ください。

1　設定画面から「詳細設定」－「ルーティング」－「ダイナミック（RIP）」をクリックし、次の設定を行います。

・LAN 側 RIP 送信は、RIP の送信の有無および送信する場合のバージョンを選択します。
・LAN 側 RIP 受信は、RIP の受信の有無および送信する場合のバージョンを選択します。

2　［設定］をクリックします。

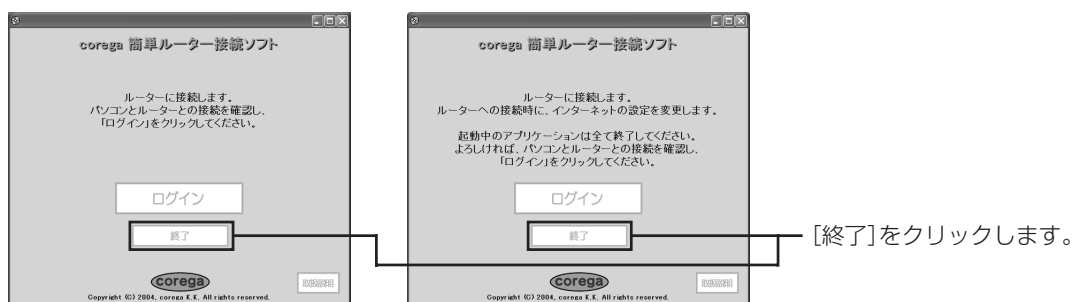
3　「システム設定」－「システム・リブート」を実行します。

本製品を無線アクセスポイントとして使用するには

アッカ･ネットワークスやイー･アクセス、NTTなどのルータ機能付きモデムをご使用の場合、本製品のルータ機能をオフにすると、本製品を無線アクセスポイントとして使用できます。

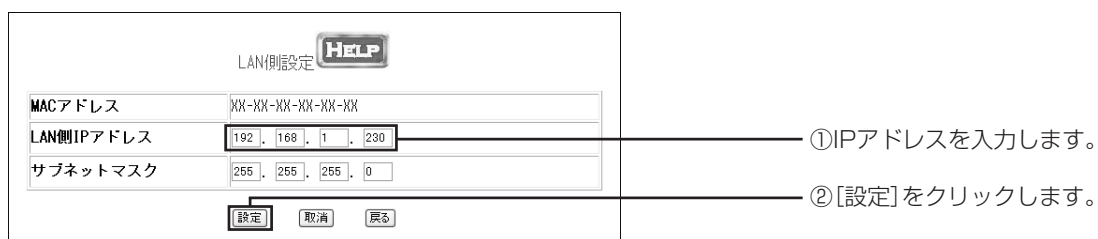
- 本書の手順を行う前に、ルータ機能付きモデムとパソコンのみを接続して、問題なく通信ができるかご確認ください。ルータ機能付きモデムの接続および設定方法につきましては、お使いのモデムの取扱説明書をご覧ください。
- 本製品にネットワーク機器を接続されている場合、正しく設定が行われない可能性がありますので、本書の手順を行う際には、必ず設定用パソコンと本製品のみを接続して行ってください。

1　パソコンのCD-ROMドライブに、付属の「簡単ルーター接続ソフト」（CD-ROM）をセットします。

2　次のいずれか画面が表示されたら、［終了］をクリックします。

3　Internet Explorerを起動し、アドレス欄に「192.168.1.1」と入力して［移動］をクリックします。

4　ログイン画面が表示されますので、ユーザー名に「root」と入力し、パスワードを空欄のままにして［ログイン］をクリックします。

5　画面左側のメニューから「LAN側設定」をクリックします。

6　「LAN側IPアドレス」の入力欄に「192.168.1.230」と入力し、［設定］をクリックします。

ルータ機能付きモデムのIPアドレスが「192.168.1.1」の場合は、必ず手順5と6を行ってください。

メモ

手順6で入力しているIPアドレスは一例です。実際にはお使いのネットワークにあわせた数値を入力してください。

7　Internet Explorer のアドレス欄に「192.168.1.230」と入力して［移動］をクリックします。

注意 **手順 7 以後、本製品の設定ユーティリティにアクセスする場合は、Web ブラウザのアドレス欄に手順 6 で設定した IP アドレスを入力してください（例では「192.168.1.230」）。**

8　ログイン画面が表示されますので、ユーザー名に「root」と入力し、パスワードを空欄のままにして［ログイン］をクリックします。

9　画面左側のメニューから「システム設定」をクリックします。

10「ルータ機能」を「無効」にし、［設定］をクリックします。

11「簡単ルーター接続ソフト」をパソコンの CD-ROM ドライブから取り出します。

12 パソコンの電源を OFF にし、モデムに接続している LAN ケーブルを本製品背面の空いている LAN ポート（1 ～ 4）に挿します。

手順 12 以後、本製品の WAN ポートは使用しません。

13 モデム、パソコンの電源を入れます。

以上で設定は終了です。

PART
5
トラブルや疑問があったら

本製品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、このPARTで解決方法を探してください。

解決のステップ

1. 取扱説明書や契約書を確認する。管理者に確認する

それでも解決しないときは…

2. このPARTのQ&Aを確認する

【トラブルは？】

●インターネットに接続できない
①プロバイダとの契約や回線工事は完了していますか？
②電源は入っていますか？
③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
⑤その他の接続は大丈夫ですか？
⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？
⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？
⑧プロバイダからの入力事項を正しく設定しましたか？
⑨ Webブラウザの設定は正しいですか？

●パソコン同士がつながらない
・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

●本製品の設定ユーティリティが起動しない
●本製品の設定ユーティリティにログインできない
●ファームウェアのアップデートに失敗した

【疑問は？】
●パソコンのIPアドレスを調べたい
●本製品のパスワードを変更したい
●最新のファームウェアを入手してアップデートしたい
●本製品の設定のバックアップを取る。元に戻す
●本製品を再起動する
●本製品を工場出荷時の状態にもどす

それでも解決しないときは…

3. コレガのホームページの情報を活用する

それでも解決しないときは…

4. それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

取扱説明書や契約書を再確認する／管理者に確認する

本書以外にもプロバイダ契約時の設定ガイドや取扱説明書、モデムの取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本製品の設定が正しくても、他の設定が間違っていたり、外部の装置の問題で正しくつながらないこともあります。このPARTの「インターネットに接続できない」の項目をすべて確認してもつながらない場合は、プロバイダ、パソコンのメーカなどに問い合わせてみてください。なお、企業でお使いの方はネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。接続できない場合はネットワーク管理部門や部内のネットワーク管理者などに確認してください。

Q&A

●インターネットに接続できない

以下の項目を順番に確認し、チェックを付けてください。

①プロバイダとの契約や回線工事は完了していますか？

B フレッツまたはフレッツ・ADSL ＋対応プロバイダなどの場合

□回線適合調査でサービス可能と認定され、工事は完了したか

□ B フレッツまたはフレッツ・ADSL に対応したプロバイダの工事は完了したか

②電源は入っていますか？

各接続機器の電源LEDがついているか、またはACアダプタなどが外れていないかを確認してください。

□ ADSL モデムまたは回線終端装置などに電源が入っているか（AC アダプタが外れていないか）

□本製品に電源が入っているか（AC アダプタが外れていないか）

③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？

□モデム（ADSL モデム、回線終端装置）とケーブル（電話回線用モジュラケーブル、同軸ケーブル、光ケーブル）が正しく接続されているか

詳しい接続については、モデムや回線終端装置に付属の取扱説明書をお読みください。

④ケーブル（モデム⇔本製品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？

□本製品と ADSL モデムまたは回線終端装置は LAN ケーブルで正しく接続されているか

本製品とモデムが正常に接続されているとWAN LED が点灯します。点灯していない場合は、ケーブルを差し直すなどしてみてください。

□本製品とパソコンは LAN ケーブルで正しく接続されているか

パソコンと本製品が正常に接続されている場合は、パソコンに電源が入っていると本製品の前面にある各 LAN ポートの通信状態 LED が点灯します。パソコンに LAN ボードまたは LAN カードがきちんと挿入されているか、LANポートに正しくケーブルが接続されているかも再度確認してください。

⑤その他の接続は大丈夫ですか？

フレッツ・ADSL の場合

□スプリッタの出力ポートの接続は正しいか（電話用と ADSL モデム用があります）

ADSL モデム、スプリッタの取扱説明書をご覧になり確認してください。

⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？

□パソコンのネットワークアダプタのドライバの設定は正しいか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.7）をご覧になり、パソコンのネットワークアダプタが正常に動作していることを再度確認してください。

⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？

□パソコンのTCP/IPが正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「パソコンのネットワーク設定をしよう」(P.7) をご覧になり、パソコンのTCP/IPが正しく設定されていることを再度確認してください。

□割り当てられた固定IPアドレスなどが設定されているか

プロバイダから複数の固定IPアドレスを割り当てられている場合は、次の手順でそれぞれのパソコンのネットワーク設定を行ってください。

・Windows XPの場合（P.7）
「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順7「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows 2000の場合（P.10）
「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順5「TCP/IPのプロパティ」画面で、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows Me／98SEの場合（P.14）
「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順5「TCP/IPのプロパティ」画面で、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」を設定してください。

⑧プロバイダからの設定事項を正しく入力しましたか？

□契約時の設定事項を本製品およびパソコンに正しく入力したか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「本製品の設定をしよう」(P.21) で設定する、プロバイダからの設定事項をすべて設定ユーティリティに正しく入力しないとインターネットには接続できません。パスワードは入力を間違っても画面上で確かめることができませんので、再度入力をやり直してみてください。大文字／小文字が区別される場合もありますので注意してください。

⑨Webブラウザの設定は正しいですか？

□Webブラウザの設定項目は正しいか

Webブラウザの設定についてはプロバイダ契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書やOSのヘルプなどをご覧ください。
Windows 98SEをお使いの場合、はじめてインターネットに接続すると、インターネット接続ウィザードが表示されます。その場合、次の手順で設定してください。

1 「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、［次へ］をクリックします。

2 「ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、［次へ］をクリックします。

3 「プロキシーサーバーの自動検出」のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。

4 「インターネットメールアカウントの設定」画面で「いいえ」をクリックし、［次へ］をクリックします。

5 「完了」をクリックします。

パソコンをダイヤルアップ環境で利用されていた場合は、お使いのOSによってはWebブラウザの設定を変更する必要があります。プロバイダ契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書やOSのヘルプなどをご覧ください。

●パソコン同士がつながらない

・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

□パソコンのネットワーク共有サービスの設定を行う

本製品のLANポートに接続されたパソコン同士がデータのやり取りをするには、共有ネットワークの設定が必要です。複数台のパソコンでデータのやり取りをする場合、Windows では Microsoft ネットワーク共有サービスを使ったワークグループ接続（ピアツーピア接続）が一般的です。設定方法については、各 OS のヘルプをご覧ください。

●本製品の設定ユーティリティが起動しない

・パソコンのネットワーク設定は正しくできていますか？

□パソコンの TCP/IP が正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「パソコンのネットワーク設定をしよう」(P.7) をご覧になり、パソコンの TCP/IP が正しく設定されているか再度確認してください。

・プロキシサーバを使う設定になっていませんか？

□ Web ブラウザのプロキシサーバの設定は正しいか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「Webブラウザの設定をしよう」(P.18) をご覧になり、Web ブラウザでプロキシサーバを使用しない設定にしてください。

・すでにフレッツ・ADSL ／ B フレッツに接続している場合は

これまでパソコンにADSLモデムなどを直接接続して、フレッツ・ADSL／Bフレッツに接続していた場合は、次の点を確認してみてください。

□ Windows XP で、PPPoE 接続の設定がされていませんか？

Windows XPの「コントロールパネル」－「ネットワークとインターネット接続」－「ネットワーク接続」で、「広帯域」の接続が作成されていると、ルータの設定ができません。「広帯域」の接続を削除してください。

□「フレッツ接続ツール」を使用していませんか？

NTTより配布されている「フレッツ接続ツール」を使用して、フレッツ・ADSL／Bフレッツに接続するように設定されていると、ルータの設定ができません。「フレッツ接続ツール」を削除してください。

●本製品の設定ユーティリティにログインできない

・別のパソコンがログインしていませんか？

別のパソコンがログインしていないか確認してください。別のパソコンがログアウトしたら、もう一度ログインしなおしてください。

・パスワードを忘れた

本製品を工場出荷時の状態に戻してください。パスワードがクリアされます。本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本製品を工場出荷時の状態に戻す」(P.85) をご覧ください。パスワードを設定したい場合は、この PART の「本製品のログイン名（ユーザ名)、パスワードを変更したい」(P.80) をご覧になり、再設定してください。

注意　**本製品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので、再設定する必要があります。**

●ファームウェアのアップデートに失敗した

本製品を工場出荷時の状態に戻してから、再度、ファームウェアのアップデートを行ってください。本製品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本製品を工場出荷時の状態に戻す」（P.85）をご覧ください。

本製品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので、再設定する必要があります。

●パソコンのIPアドレスを調べたい

パソコンのIPアドレスを調べるには、次の方法を行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

■ Windows XP／2000の場合

1　「スタート」－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。

2　キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

3　IPアドレスを確認します。

■ Windows Me／98SEの場合

1　「スタート」－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

2　「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、［OK］をクリックします。

3　パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］をクリックした後、［書き換え］をクリックしてください。

●本製品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したい

本製品のログイン名（ユーザ名）、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　設定ユーティリティを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　管理者ログイン名、管理者ログイン・パスワード、パスワードの確認にログイン名と新しいパスワードを入力して［設定］をクリックします。

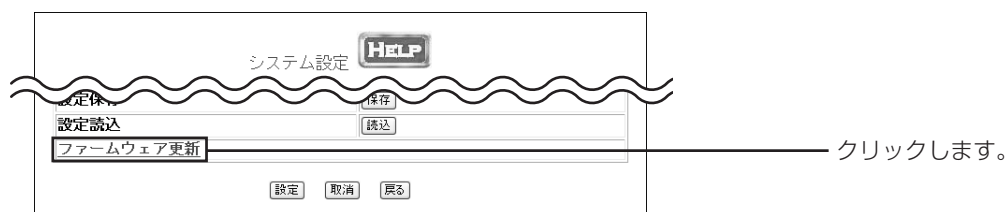
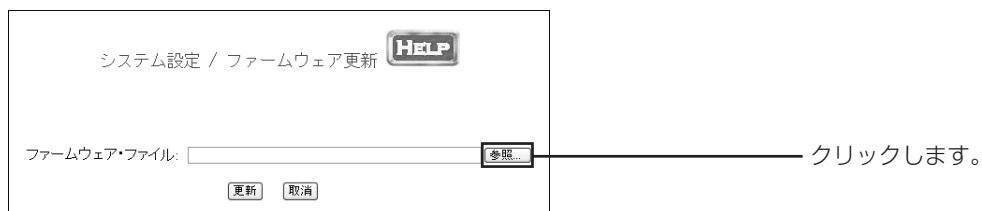
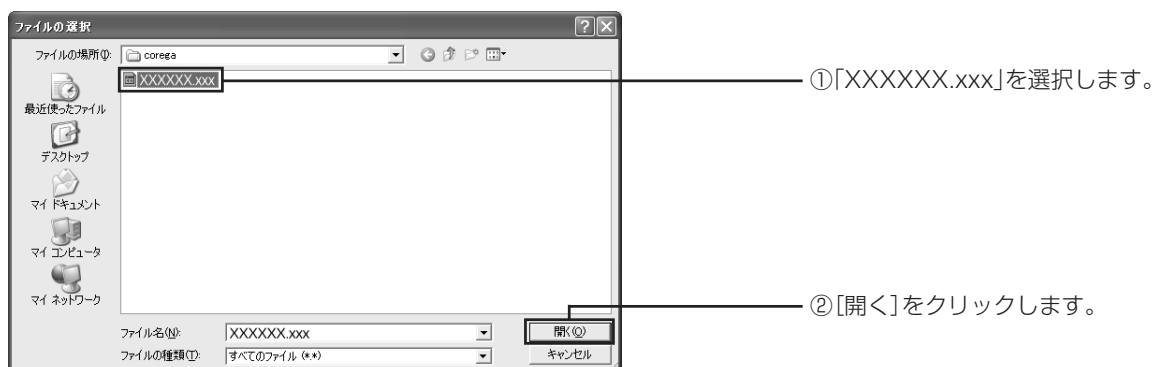
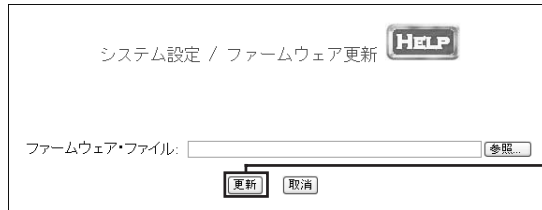
●最新のファームウェアを入手してアップデートしたい

本製品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは弊社のホームページ（http://www.corega.co.jp/）から入手してください。

・更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。
・ファームウェアをアップデートする前に、本製品の設定内容をメモしておいてください。
・ファームウェアをアップデート中は、他の操作を行ったり、本製品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本製品の故障の原因となる場合があります。

ここでは例として「C:¥corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイルを保存した場合で説明します。

1　設定ユーティリティを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　［ファームウェア更新］をクリックします。

3　［参照］をクリックします。

4　「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、［開く］をクリックします。

5　［更新］をクリックします。

6　次のダイアログボックスが表示されたら［OK］をクリックします。クリックすると、ファームウェアの更新処理が開始されます。

7　更新作業が終了したら、初期化スイッチを使って本製品を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは「本製品を工場出荷時の状態に戻す」（P.85）をご覧ください。

ファームウェアのアップデートの再起動は初期化スイッチを使用してください。

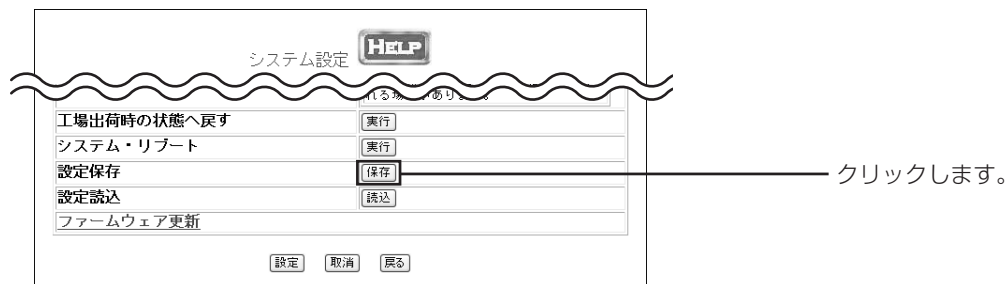
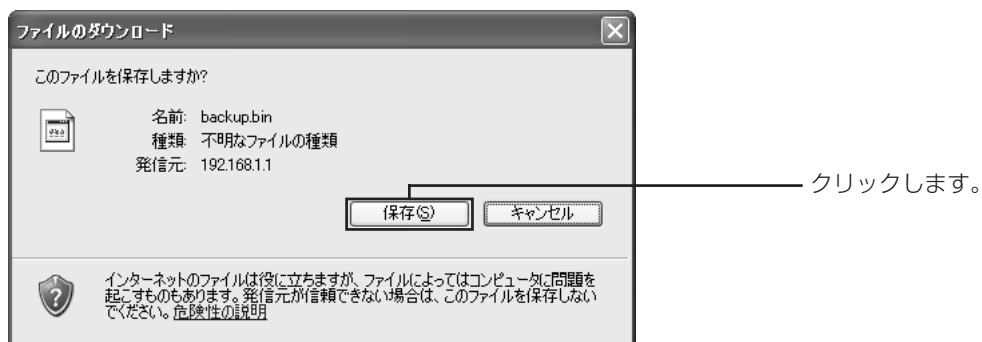
以上でファームウェアの更新は終了です。

●本製品の設定のバックアップを取る／元に戻す

現在の設定内容をバックアップし､何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に､保存してあるバックアップファイルを使用して、設定を元に戻すことができます。

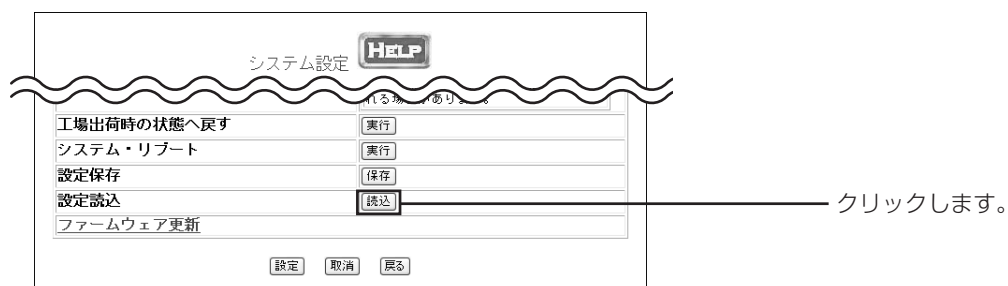
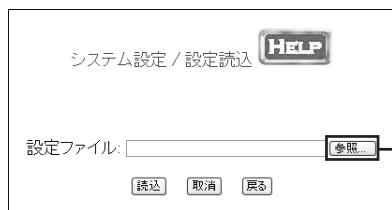
■バックアップを取る

1　設定ユーティリティを起動し､「システム設定」画面を表示させます。

2　「設定保存」の［保存］をクリックします。

3　「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されたら［保存］をクリックします。

4　「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、［保存］をクリックし、保存する場所を指定してファイルを保存します。

■元に戻す

1　設定ユーティリティを起動し､「システム設定」画面を表示させます。

2　「設定読込」の［読込］をクリックします。

3　画面が表示されたら、［参照］をクリックします。

4　前ページ「本製品の設定のバックアップを取る」で保存したファイルを選択して、［開く］をクリックします。

5　［読込］をクリックします。

以上で、本製品の設定を元に戻すことができました。

●本製品を再起動する

本製品のシステムを再起動します。設定を変更した場合には、本製品を再起動して設定内容を反映させてください。本製品を再起動する操作は「工場出荷時の状態に戻す」操作とは異なりますのでご注意ください。本製品を再起動するには、次の２つの方法があります。

■初期化スイッチを使う

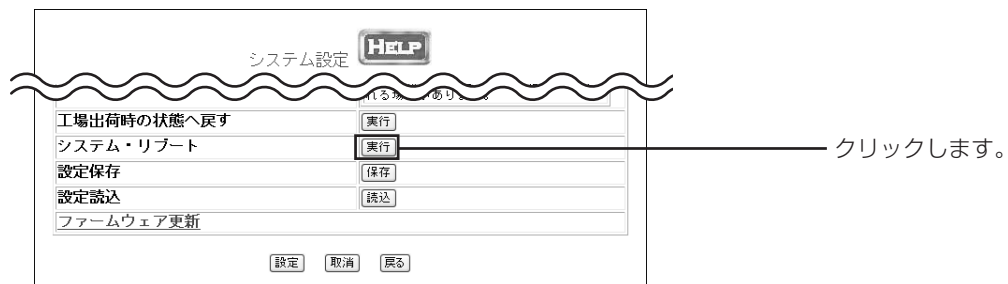
1　本製品の電源が入っている状態で、ゼムクリップなど堅くて先の細いものを使用し、本製品背面にある初期化スイッチを押します。

2　初期化スイッチを５秒未満で離します。ステータスLEDが点灯後に消灯したら、再起動は完了です。

注意　**初期化スイッチを5秒以上押すと、本製品の設定が工場出荷時の状態に戻ってしまいますので、ご注意ください。**

■設定ユーティリティを使う

1　設定ユーティリティを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　「システム・リブート」の［実行］をクリックします。

3　「システム・リブートを実行しますか?」と表示されるので、［OK］をクリックします。

4　システム・リブート中に、電源 LED が消え、再び点灯したら再起動の完了です。

●本製品を工場出荷時の状態に戻す

本製品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ってしまいますので、重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり、「本製品の設定のバックアップを取る／元に戻す」(P.83)を実行し、再設定できるようにしておいてください。本製品を工場出荷時の状態に戻すには、次の２つの方法があります。

■初期化スイッチを使う

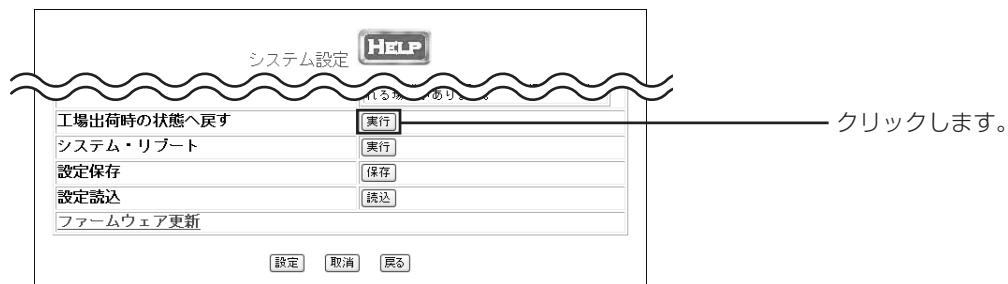
1　本製品の電源がオンの状態で、背面の初期化スイッチを押します。初期化スイッチはゼムクリップなど堅くて細いもので押してください。

2　初期化スイッチを 15 秒以上押し、ステータス LED が点灯したら初期化スイッチを離します。

3　ステータス LED が消灯すると、本製品が工場出荷状態に戻ります。

■設定ユーティリティを使う

1　設定ユーティリティを起動し、「システム設定」画面を表示させます。

2　「工場出荷時の状態へ戻す」の［実行］をクリックします。

3　「工場出荷時の状態へ戻す」を実行しますか?　と表示されるので、［OK］をクリックします。

4　「処理しました」と表示されますので、「完了」をクリックします。

コレガのホームページの情報を活用する

コレガのホームページでは、お客様からのよくあるお問い合わせ情報やネットワークの一般知識を分かりやすく解説しています。困っていることを解決するヒントを見つけてください。

http://www.corega.co.jp/

MACアドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなどに直接接続するネットワーク機器（本製品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。
本製品の MAC アドレスは本体底面に記載されております。
LAN 側の MAC アドレスについては、設定ユーティリティのステータス（P.44）で確認できます。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
・本製品の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

2005 年 5 月　　初版
2005 年 8 月　第二版